

科 目	自然科学概論	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	酒井 紀之	教員区分	一般教員

教科書	特に指定なし
参考書	「高等学校生物基礎」(第一学習社)
成績評価	期末テスト80%, 小テスト20%の総合評価。 定期試験ないし総合点が60点に満たない者は再試験とする。
留意事項	講義内容に関するプリントを配布し、講義内容に関する小テストを各回で実施する。講義のプリントと小テストは期末試験の範囲となるので各自保管し、学習すること。

科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
授業概要	鍼灸治療の専門的な知識をつけるうえで必要となる生物学の基礎の理解と、社会でその知見がどのように活かされているかを学修する。

日程

回 数	授業内容
1	ガイダンス(本科目の勉強方法), 生物の共通性と多様性(生物の定義, 細胞の構造)
2	生物とエネルギー(ATPの特徴, 異化, 同化)
3	代謝と酵素(酵素の特徴, 酵素の働き)
4	遺伝子とその働き① 遺伝子の本体と構造
5	遺伝子とその働き② DNAの研究史, DNAの複製と分配(細胞周期, 半保存的複製)
6	遺伝子とその働き③ 遺伝情報とタンパク質(転写, 翻訳)
7	遺伝子とその働き④ 遺伝子とゲノム(分化, iPS細胞)
8	ヒトの器官とその働き(眼, 肝臓, 腎臓, 心臓, 肺)
9	恒常性と神経系(脳の働き, 自律神経系)
10	恒常性と内分泌系(血糖濃度の調節, 体温の調節)
11	免疫① 病原体, 免疫に関わる細胞・組織・器官
12	免疫② 自然免疫・獲得免疫の流れ
13	免疫③ 二次応答, 自然免疫と獲得免疫の特徴
14	免疫④ 免疫と生活, 免疫と医療
15	期末テスト
16	テスト解説

科 目	身体と科学	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義演習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	笹島 修平	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「運動生理学20講 第3版」 勝田茂, 征矢英昭編 (朝倉書店出版)
成績評価	定期試験で評価
留意事項	特になし

科目の目標	人体の生理メカニズムの理解, スポーツ科学やトレーニングについて学ぶ。
授業概要	身体のメカニズムを知り, スポーツを行う時の身体の動き・しくみ, 様々な環境下における生理応答のメカニズムとその機能を理解する。 小テストを行い, 知識の習得具合を確認する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション
2	体表区分
3	骨 (名称・大きさ・位置・特徴) ①
4	骨 (名称・大きさ・位置・特徴) ②
5	関節の名称と運動①
6	関節の名称と運動②
7	筋 (名前・大きさ・位置・作用) ①
8	筋 (名前・大きさ・位置・作用) ②
9	まとめ①
10	筋力とパワー
11	運動と代謝
12	トレーニングとコンディショニング
13	スポーツ栄養
14	まとめ②
15	定期試験
16	解答と解説

科 目	人文科学	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	柳澤 一恵	教員区分	一般教員

教科書	浜島書店「基点◎ 現代文ゼミ II」
参考書	国語辞典 漢和辞典
成績評価	定期試験60%と確認テスト20%で80%・漢字テスト10%・提出物等10%の総合評価。 定期試験ないし総合点が60点に満たない者は再試験とする。
留意事項	1) 毎時間教科書を持参, 授業中に解答と確認 2) 現代語の知識や考えを身につける

科目の目標	基礎知識を学び, 読解力の向上を目指す。内容をつかみ, 要約できるようにする。
授業概要	1) 漢字と言葉 2) 段落メモ 3) 読解問題 4) 百字要約

日程

回 数	授業内容
1	授業方針の説明 自己紹介 リフレクションなど 1) 【評論】池内 了「疑似科学の流行」を読む
2	2) 【評論】内田 樹「からだが覚える倫理性」を読む
3	3) 【随筆】青木 玉「紫の着物」を読む
4	4) 【小説】小川洋子「キリコさんと私」を読む
5	6) 【評論】野矢茂樹「見えない枠組」を読む
6	8) 【小説】三浦しおん「血の通った辞書」を読む
7	確認テスト
8	確認テストの解答と解説 10) 【随筆】高樹のぶ子「業平に見る『雅』」を読む
9	11) 【小説】砥上裕将「花に教えを請え」を読む
10	12) 【小説】堀 辰雄「夕暮れの病室」を読む
11	13) 【評論】福岡伸一「進化の可能性のために」を読む
12	16) 【小説】芥川龍之介「蜜柑」を読む
13	17) 【評論】若林幹夫「歌をうたい共有すること」を読む
14	18) 【評論】中屋敷均「科学の生命線」を読む
15	定期試験
16	定期試験解答と解説 総合復習

科 目	人間学 I	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時間数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	前期
教 員 名	内藤 潔	教員区分	一般教員

教科書	指定なし（1週間前にレジュメを配布し、当日にパワーポイントで講義する）
参考書	毎回のレジュメで紹介するが、主なるものは以下です。 『交換の社会学』橋本茂著（世界思想社） 『贈与論』マルセル・モース著（ちくま学芸文庫） 『功利主義入門：はじめての倫理学』児玉聡著（ちくま新書） 『ファッションの技法』山田登世子著（講談社現代新書） 『ファッションの文化社会学』ジョアン・フィゲリョ著・成実弘至訳（せりか書房） 『自発的隷従論』エティエンヌ・ド・ラ・ボエシ著/西谷修監修・訳（ちくま学芸文庫） 『監獄の誕生』ミッシェル・フーコー著/田村俣訳（新潮社） 『自由からの逃走』エーリッヒ・フロム著/日高六郎訳（東京創元社） 『行動経済学』友野典男著（光文社新書） 『信頼の構造』山岸俊男著（東京大学出版会） 『ファスト&スロー』ダニエル・カーネマン著（ハヤカワ文庫） 『「新しい働き方」の経済学』井上義郎著（現代書館） 『フリーライダーあなたの隣のたのり社員』河合太介・渡部幹著（講談社現代新書）
成績評価	中間レポート30%，定期試験70%で評価。定期試験が60点未満で再試験となる。
留意事項	定期試験は記述式の小論文です。初回授業からそれを意識して聴講してください。

科目の目標	まず、治療の専門家として今後必要となる「社会と人間のリアルな関係性」を理解することを目標とします。そのため基本的な人間の社会的行動における原理を学びます。次いで、その理解を基に、自分なりに現実社会へ「定位」できる（自分の居場所を得られる）、そうした「社会的な技術」の把握を目指します。
授業概要	授業内容で暗記するようなことは、ほとんどありません。何よりも自分で考えることが中心的な課題となります。授業では、身近に起こっている社会的な事象をたくさん紹介します。社会的な関係が成立しているところには、必ず「交換関係」が存在するという観点に立ち、身近な出来事を一緒に分析します。そして、そこで交換される「交換財」や「交換形式」を学びながら、自分なりの行動原理を考えていくことになります。

日程

回 数	授業内容
1	ガイダンス（学問とは幸福論であるという理解）と授業のイントロダクション
2	●人間の基本的な行動原理（進化心理学と交換論の成果を紹介します） ① 感情と理性 ② 集団でしか生き残れなかった人類 ③ 5つの一般命題（人間行動の基本的な説明原理）
3	●社会行動は「財」の交換 ① 交換という関係性（交換論の立場の解説） ② 互酬性（贈与と返礼の関係性） ③ 功利主義（快楽と苦痛が人間を動かす根本原理）

4	●権力と権威の在りどころ ① 勢力と権力 ② 利害関心最少の原理（惚れた弱み） ③ 「中央化」とは（偉そうな人間の存在構造）
5	●挨拶はなぜ必要か？ ① 規範と集団（同調には報酬，逸脱には罰を） ② 空間浸食（縄張り争い） ③ マナー，作法（安全保障に向けた同質性の証明）
6	●ファッションの意味 ① 逸脱には罰を（所属集団の明示と期待に対する応答性，時流との整合性） ② 同一性と差異性（異なる願望の同時達成） ③ 印象の資源化（交換関係における価値の操作）
7	●アメとムチ（他者統制の方法） ① 罰による統制 ② 自然権としての自由（自由剥奪の様々な方法を罰という） ③ 人間本姓としての隷従願望（誰かに従っていないと不安）
8	●人と人の結びつき（紐帯）の原理的傾向 ① バランス理論（態度を変えよときの説明原理） ② 関係の多面化（離れられない関係になる理由）
9	●どちらが損か得か（合理性命題） ① 経済学と「経済人」（ホモ・エコノミクスという社会的な人間類型） ② 功利主義（快楽の増大と苦痛の減少＝道德の基礎） ③ 合理性命題（損得勘定の原理）
10	●いつでも都合の良い他人（捨象の産物） ① 認識と思考のメカニズム（知覚→認識→思考） ② 具体から抽象へ（「余分」を切り取った認識パターン） ③ ユーザーの捨象（権力的な関係が生まれる構造）
11	●もめごとの本質（他人に対する空間的な侵犯） ① 行為の越境 ② 権利の両属空間（どちらにも権利がある） ③ 調停の限界（法では解決できないこと）
12	●安全・安心／ファスト思考とスロー思考 ① 安心ということ（安心と安全の違い） ② 信頼の構造（「一般的信頼」が大切） ③ 一般的信頼を高める方法 ④ 早い思考と遅い思考（私たちの脳は怠け者：認知容易性の落とし穴）
13	●何を基準に仕事を選ぶのか？ 給料をもらうとは？ ① 認知容易性（楽そうなことをすぐ選ぶ） ② 「比較優位」の原理（得意なことを仕事にする） ③ 実際の職業生活における「交換」
14	●「公」への無関心 ① フリーライダー問題（ただ乗り） ② 割れ窓理論（放置の問題性） ③ 権利・責務意識の変化（権利主張の風潮） ④ 行為と距離（物理的距離と心理的距離）
15	定期試験
16	まとめ

科 目	解剖学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時間数	32
		履修年次	1 年次
		実施学期	前期
教 員 名	小笠原 京哉	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	適宜紹介
成績評価	2回目以降に授業内で行う小テストの成績を4割, 期末試験の成績を6割の総合評価とする. ただし, 期末試験で60点未満または総合評価60点未満の者は再試験とする.
留意事項	医学の基礎となる科目のため, 予習・復習に努めること.

科目の目標	人間の体のつくり(構造)を学び, 人体に興味を持つ.
授業概要	全身の骨と各部位の名称の正しい名称・位置を覚える. 全身の関節の構成と形状を覚える.

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・運動器系総論
2	上肢帯の骨
3	上肢の骨
4	手・足の骨
5	下肢の骨
6	脊柱の骨
7	胸郭・骨盤の骨
8	頭蓋骨①
9	頭蓋骨②
10	骨の総論
11	関節の総論
12	上肢の関節
13	下肢の関節
14	脊柱の関節
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	解剖学Ⅲ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	原 島 基	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「解剖学講義」 伊藤隆 著(南山堂) 「からだが見える」 (メディックメディア)
成績評価	定期試験の結果による。
留意事項	100%の出席を目指す。眠らずに、集中して授業に参加する。 暗記箇所が多々あるので、アウトプットを適時行い、暗記の確認を行いながら学習する。 授業の進行度合いにより、授業内容が前後することがある。

科目の目標	内臓学の構造と機能を学ぶことで、各自が各臓器を自身に投影させ人体の営みを理解し、以降に履修する臨床科目の疾病や病態に活かせるようにする。
授業概要	循環器系、呼吸器系ならびに各組織の名称と形態を中心に学び、体内における相互の位置関係(立体的構築)を把握し、その役割を理解する。

日程

回 数	授業内容
1	第1章人体の構成 1:総論・細胞
2	第1章人体の構成 2:組織①
3	第1章人体の構成 3:組織②
4	第1章人体の構成 4:体表解剖
5	第2章循環器系 1:血管系
6	第2章循環器系 2:心臓
7	第2章循環器系 3:脈管①
8	第2章循環器系 4:脈管②
9	第2章循環器系 5:脈管③
10	復習①:確認問題と解答・解説
11	第2章循環器系 7:胎児循環 リンパ系
12	第3章呼吸器系 1:呼吸器系 鼻腔と副鼻腔
13	第3章呼吸器系 2:咽頭と喉頭 3:気管と気管支 4:肺
14	復習②:確認問題と解答・解説
15	定期試験
16	定期試験解説

科 目	生理学 I	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1 年次
		実施学期	前期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「標準生理学」 本間研一 監修(医学書院) 「人体の正常構造と機能」 坂井建雄ら 編集(日本医事新報社) 「生理学インパクト」 原田晃 著(医道の日本社)
成績評価	定期試験による
留意事項	病理学や臨床医学各論の基礎となる科目のため理解することに重きをおく。

科目の目標	生体の正常な機能を理解することで、他の基礎分野・専門基礎分野・専門分野を学ぶ上での基礎を養い、はり師・きゅう師に必要な生体の機能を習得する。
授業概要	本講義では、循環、生体の防御機構、呼吸について取り上げ、人体の生理を維持するメカニズムなどを学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	授業概要説明、循環1：血液の組成と働き(赤血球)
2	循環2：血液の組成と働き(白血球、血小板、血漿)
3	循環3：止血、線維素溶解
4	循環4：血液型、心臓血管系、心臓の構造
5	循環5：心臓の構造と働き(心筋の特性、刺激伝導系、心機能の調節)
6	循環6：心臓の構造と働き(心電図、神経支配) 血液循環(血管、脈拍、毛細血管の循環)
7	循環7：血液循環(静脈、神経支配、血圧)
8	循環8：循環調節(調節の仕組み、循環中枢、反射性調節、高位中枢からの影響)
9	循環9：循環調節(特殊な部位の循環)、リンパ系 生体の防御機構1：生体の防御機構(自然免疫、獲得免疫)
10	生体の防御機構2：生体の防御機構(白血球、液性因子、リンパ系器官)
11	生体の防御機構3：免疫反応の分類(液性免疫と細胞性免疫、炎症、アレルギー、)
12	呼吸1：呼吸器(外呼吸と内呼吸、構造と機能)、換気とガス交換(肺機能)
13	呼吸2：換気とガス交換(交換と運搬)、呼吸運動とその調節(吸息、呼息、胸腔内圧)
14	呼吸3：呼吸運動とその調節(呼吸中枢、反射性調節、異常)
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	生理学Ⅲ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	根本 香代	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	特に指定しない
成績評価	小テスト, 課題提出, 定期試験による総合評価。 総合評価, または定期試験が60点に満たない者は再試験とする。
留意事項	授業をよく聞き, 復習を必ず行なうこと

科目の目標	生体は生命を維持するために, 内部環境の恒常性を保っている。生理学では, われわれの身体がこの恒常性を維持するためにどのように働いているかを主として各器官系別に学ぶ。本科目の生理学Ⅲにおいては, 生理学の基礎, 内分泌, 生殖, 身体活動の協調, 体温について学ぶ。
授業概要	教科書に沿って生理学の知識を深めていく。随時, 小テストを行い, 理解の度合いを確認しながら, 進める。

日程

回 数	授業内容
1	生理学の基礎①: 生理機能の特徴, 細胞の構造と機能
2	生理学の基礎②: 物質代謝, 体液の組成と働き, 物質移動
3	内分泌①: ホルモンの特徴
4	内分泌②: 視床下部ホルモン, 下垂体ホルモン
5	内分泌③: 甲状腺ホルモン
6	内分泌④: 副甲状腺ホルモン, 膵臓のホルモン
7	内分泌⑤: 副腎のホルモン
8	内分泌⑥: 性ホルモン
9	生殖①: 生殖
10	生殖②: 妊娠と出産, 成長と老化
11	体温①: 体温調節, 体熱の産生と放散
12	体温②: 発汗とその調節, 体温調節の障害
13	身体活動の協調①: 生体の適応, 恒常性維持
14	身体活動の協調②: バイオリズム
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	医療倫理	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	原 島 基	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし
成績評価	定期試験による。
留意事項	医療ならびに職業について、自身で考えを持って授業に参加する。

科目の目標	医療人が患者様から信頼を得るためにはどうすればよいかを考える。また、鍼灸業界の現状を知り、鍼灸師としてとるべき態度はいかなるものか、治療者に必要なものは何か、そして何のために鍼灸師になろうと思ったのかを考え、目的を持った学生生活を送るための課題を考えていく。
授業概要	治療者としての基本的な心構え、知識を共に考えていくとともに、目標および目的を設定していく。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション
2	インフォームド・コンセントについて
3	鍼灸の現場の現状について
4	医療の4原則について
5	個人情報の保護について
6	現代の課題、諸問題について
7	定期試験
8	総括

科 目	はりきゅう理論	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	椎野 崇	教員区分	一般教員

教科書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「はりきゅう実技<基礎編>」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
成績評価	定期試験を8割、小テストを2割として総合評価をする。 総合評価、または定期試験が60点に満たない者は再試験とする。
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。 教科書・プリントは指示がなくても毎回すること。 授業内容を復習すること。 進行状況により、シラバスの内容が変更される場合あり。

科目の目標	本科目は「鍼」と「灸」の基礎知識を学び、そのリスクについて理解することを目標とする。
授業概要	鍼灸臨床で用いる器具、技術、衛生的処置をきちんと理解し実践できること。 鍼灸療法の禁忌やリスク、副作用について理解し把握すること。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、概論
2	リスク管理(感染症対策)
3	鍼の基礎知識①
4	鍼の基礎知識②、刺鍼の方式と術式①
5	刺鍼の方式と術式②
6	特殊鍼法
7	灸の基礎知識
8	灸術の種類
9	鍼灸の臨床応用①
10	鍼灸の臨床応用②
11	鍼灸の臨床応用③
12	リスク管理①
13	リスク管理②
14	総合演習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	経絡経穴概論Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	内藤 玄吾	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)		
参 考 書	「ツボがある本当の意味」	栗原誠 著	(BABジャパン)
	「針灸学〔経穴編〕」	兵頭明 翻訳	(東洋学術出版社)
	「経穴主治症総覧」	池田政一 編著	(医道の日本社)
	「臨床経穴ポケットガイド」	篠原昭二 著	(医歯薬出版)
	「鍼灸経穴辞典」	天津中医薬大学 編	(東洋学術出版社)
成績評価	経穴名の暗唱2割, 小テスト3割, 定期試験5割による総合評価。 定期試験ないし総合点が60点に満たない者は再試験とする。		
留意事項	授業内で経穴名, 取穴法が覚えられるよう集中して臨むこと。 授業内だけで覚えられる量では無いので, 自宅での学習に努めること。 授業中のスマートフォンの利用は原則禁止とする。使用を注意された場合は4点の減点とする。 進行状況に応じシラバスは前後します。		

科目の目標	経絡経穴についての基礎的知識(経絡名・経穴名・取穴部位)を理解習得し, 鍼灸師としての基礎を作る。
授業概要	講義と体, イラストを使用した形式で実施する。繰り返し同じ図を用いることで印象を深めていく。授業開始時に小テストを実施し, 理解度を確認する。

日程

回 数	授業内容
1	1 章 経絡・経穴の基礎, 2 章 十四経脈とその経穴 手の太陰肺経①
2	2 章 十四経脈とその経穴 手の太陰肺経②, 手の陽明大腸経①
3	2 章 十四経脈とその経穴 手の陽明大腸経②
4	2 章 十四経脈とその経穴 手の陽明大腸経③
5	2 章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経①
6	2 章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経②
7	2 章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経③
8	2 章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経④
9	2 章 十四経脈とその経穴 足の太陰脾経①
1 0	2 章 十四経脈とその経穴 足の太陰脾経②
1 1	2 章 十四経脈とその経穴 手の少陰心経, 手の太陽小腸経①
1 2	2 章 十四経脈とその経穴 手の太陽小腸経②
1 3	2 章 十四経脈とその経穴 督 脈, 任 脈
1 4	まとめ
1 5	定期試験
1 6	解答・解説

科 目	東洋医学概論Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	飯塚 聡	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	適宜, 紹介をする.
成績評価	小テスト1回(10%)・定期試験(90%)の結果を主とし, 授業へ参加する姿勢も考慮の対象とする.
留意事項	遅刻・欠席をしないこと. 復習する習慣をつけ疑問を持ち越さないこと.

科目の目標	東洋医学についての基礎的な知識を学び, 専門用語を理解する. 東洋医学的な人体の見方や病理を理解し, 国家試験や臨床に応用する力をつける.
授業概要	東洋医学の歴史や哲学, 人体の見方やその生理・病理を学ぶ.

日程

回 数	授業内容
1	第1章 東洋医学の特徴: 東洋医学の沿革・人体の見方・東洋医学的治療
2	第3章 東洋医学の思想: 陰陽学説
3	第3章 東洋医学の特徴: 五行学説
4	第2章 生理と病理: 生体物質と神(生体物質)
5	第2章 生理と病理: 生体物質と神(神)
6	第2章 生理と病理: 生体物質と神(人体における陰陽)
7	第2章 生理と病理: 蔵象学説
8	第2章 生理と病理: 五臓とその機能に関連した領域(肝・1)
9	第2章 生理と病理: 五臓とその機能に関連した領域(肝・2, 胆)
10	第2章 生理と病理: 五臓とその機能に関連した領域(心・1)
11	第2章 生理と病理: 五臓とその機能に関連した領域(心・2, 小腸)
12	第2章 生理と病理: 五臓とその機能に関連した領域(脾・1)
13	第2章 生理と病理: 五臓とその機能に関連した領域(脾・2, 胃)
14	前期の復習: 定期試験に向けて
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	鍼基礎実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	北園 実鈴	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技＜基礎編＞ 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	実技試験・授業態度・出席状況による総合評価。 実技試験が6割以下の者、もしくは総合評価が6割以下の者は再試験とする。
留意事項	実習内容について毎日反復練習に努めること。 体調をしっかりと管理し、遅刻・欠席をしないこと (欠席－4点、遅刻・早退－2点、ふさわしくない身だしなみ－2点)

科目の目標	刺鍼の基本および身体各部への安全な刺鍼法を習得する。 鍼灸師として施術に必要な衛生概念を身につける。
授業概要	刺鍼に必要な基礎知識を学習する。衛生管理 (用具・手指などの清潔保持、消毒)、 医療過誤の概要を学ぶ。安全に適切な刺鍼が行えるよう基礎技術を習得する。

実務経験	鍼灸接骨院で勤務
実務経験と 授業の関連	臨床で培った刺鍼技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	鍼の基礎知識① 手指の衛生管理
2	鍼の基礎知識② 姿勢、鍼の衛生的な準備、刺手、挿管
3	押手
4	前揉法～立管①、切皮①
5	部位消毒、前揉法～立管②、切皮②、抜鍼
6	鍼の基礎知識③ 部位消毒～切皮 (各自：大腿部) ①
7	部位消毒～切皮 (各自：大腿部) ②、刺入練習 (刺鍼練習器など) ①
8	刺入練習 (刺鍼練習器など) ②、鍼尖感覚の練習
9	鍼の基礎知識④ 刺入練習 (各自：大腿部) ①
10	刺入練習 (各自：大腿部) ②

1 1	刺入練習（各自：大腿部）③
1 2	刺入練習（各自：大腿部）④
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	フィードバック
1 6	刺入練習（まとめ）

科 目	灸基礎実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	割田 萌・内藤 玄吾	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技＜基礎編＞ 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	実技試験(70%)，課題提出(30%)，出席状況，授業態度，身だしなみによる総合評価。実技試験が6割未満の者，もしくは総合評価が6割未満の者は再試験とする。
留意事項	火の取り扱いに十分注意し，自宅でも反復練習に努めること。 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること(ふさわしくない身だしなみ－2点)。 体調をしっかりと管理し，遅刻・欠席・早退をしないこと(欠席－4点，遅刻・早退－2点)。 授業中のスマートフォンの利用は原則禁止とする。使用を注意された場合は4点の減点とする。

科目の目標	灸に関する基礎的な知識，技術を習得し，灸施術における動作を安全かつ正確に行える能力・態度を身に付ける。
授業概要	灸の基礎知識を学び，施灸の基礎技術を習得する。

実務経験	左門町鍼灸院で勤務。
実務経験と授業の関連	臨床で培った技術を授業に取り入れる。

日程

回 数	授業内容
1	授業の概要と進め方，実習上の諸注意，備品の取り扱い・準備について
2	灸の基礎知識①，施灸練習(艾のひねり方，艾の立て方)①
3	灸の基礎知識②，施灸練習(艾のひねり方，艾の立て方)②
4	施灸練習(線香の使い方，リスク管理)
5	施灸練習(点火)①，課題説明
6	施灸練習(点火)②
7	施灸練習(灸温度計)
8	施灸練習(紙への施灸)①
9	施灸練習(紙への施灸)②
10	施灸練習(紙への施灸)③

1 1	施灸練習（紙への施灸）④
1 2	施灸練習（紙への施灸）⑤
1 3	施灸練習（紙への施灸）⑥
1 4	実技試験
1 5	試験のフィードバック
1 6	再試験・総復習

科 目	社会科学概論	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	渡邊 智寛	教員区分	一般教員

教科書	使用しない。適宜資料を配布。
参考書	準備が必要なものはなし。 授業中に紹介する参考文献や資料を開講期間中に一読することを推奨する。
成績評価	授業内小テスト 30%＋終講試験 70%（小テストを実施しない場合は終講試験のみで評価）
留意事項	具体的社会事象を扱う。最新の時事問題を取り上げることもあるため、普段から新聞・テレビ・ネット等を用いてニュースに触れておくことが望ましい。授業内容の一部変更もあり得るが、その際は事前に告知する。

科目の目標	さまざまな社会現象を学際的な視点から読み解く。身近でありながらも普段顧みられることの少ない法や行政制度を、既存の固着化したシステムとしてではなく、生きた人間関係のレベルに引き戻して考える。その他、犯罪者や病者、障害者などを取り巻く問題の検討を通じ、社会保障や公衆衛生についても理解を深める。
授業概要	授業教材としていくつかの映画を用いる（映像の放映はない）。社会現象や社会問題をそれらの映画がどのように扱っているかを参考にすることで、授業理解の助けとする。

日程

回 数	授業内容
1	社会科学とは何か——社会科学のアウトライン
2	社会とは何か——集団・組織、フォーマル組織・インフォーマル集団、社会化
3	通過儀礼——その社会的意味、分離→移行→結合のプロセス、死と再生のシンボリズム
4	社会統計——統計資料の読み方
5	現代社会生活と法①——憲法・刑法・刑事訴訟
6	現代社会生活と法②——刑事裁判の問題点
7	裁判員制度①——裁判員制度に関する詳細、市民参加型裁判の類型
8	裁判員制度②——判決・量刑、正当防衛・過剰防衛・執行猶予
9	社会と犯罪①——犯罪をめぐる解釈枠組み
10	社会と犯罪②——社会的排除・包摂
11	ネット社会と監視社会①——ネット犯罪と関連法規
12	ネット社会と監視社会②——監視社会と管理社会
13	社会保障と公衆衛生①——医療保険制度、高齢者介護問題
14	社会保障と公衆衛生②——国家試験関連過去問解説
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説、授業総括

科 目	解剖学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	小笠原 京哉	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	適宜紹介
成績評価	定期試験6割, 小テスト4割による総合評価。 定期試験ないし総合点が60点に満たない者は再試験とする。
留意事項	小テストが規定の点数に満たないものは随時再テスト or レポート提出を実施する。

科目の目標	運動器の基幹要素である骨・筋について理解する。 筋の作用を自分の体を用いてイメージできるようにする。
授業概要	全身にある重要な筋の起始・停止・支配神経・作用を覚える。 骨の部位名(主に筋の起始停止に関わる場所)の復習をする。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション, 骨格筋総論
2	上肢帯・上腕の筋
3	前腕の屈筋
4	前腕の伸筋
5	大腿の筋
6	下腿の筋
7	体肢の筋の総復習
8	体幹の筋(浅胸筋・深胸筋・横隔膜)
9	腹部・背部の筋
10	背部の深層筋
11	内寛骨筋・外寛骨筋
12	頭頸部の筋
13	会陰筋・手の内在筋・足の内在筋
14	総復習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	解剖学Ⅳ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	後期
教 員 名	原 島 基	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「解剖学講義」 伊藤隆 著 (南山堂) 授業時に配布する資料
成績評価	定期試験の結果による。
留意事項	100%の出席を目指す。集中して授業に参加する。 生理学とリンクしている箇所が多々あるので結びつきができるよう学習する。 授業の進行度合いにより、授業内容が前後することがある。

科目の目標	内臓学の構造と機能を学ぶことで、各自が各臓器を自身に投影させ人体の営みを理解し、以降に履修する臨床科目の疾病や病態に活かせるようにする。
授業概要	消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系の名称と形態を中心に学び、体内における相互の位置関係(立体的構築)を把握し、その役割を理解する。

日程

回 数	授業内容
1	消化器系 1 循環器・呼吸器の復習, 消化器系 1 (消化管の基本構造)
2	消化器系 2 口腔, 歯, 舌, 唾液腺
3	消化器系 3 咽頭, 食道, 胃
4	消化器系 4 小腸, 大腸, 肛門
5	消化器系 5 肝臓, 胆嚢, 膵臓
6	消化器系 6 腹膜, 腹膜後臓器 消化器まとめ
7	泌尿器系 1 腎臓
8	泌尿器系 2 尿路(尿管, 膀胱, 尿道) 泌尿器まとめ
9	生殖器系 1 男性生殖器
10	生殖器系 2 女性生殖器(卵巣～子宮)
11	生殖器系 3 外生殖器, 受精と発生 生殖器まとめ
12	内分泌系 1 脳下垂体, 松果体, 甲状腺, 上皮小体
13	内分泌系 2 副腎, 膵臓, 性腺
14	解剖学Ⅳの復習
15	定期試験
16	定期試験解説

科 目	解剖学V	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	島田 和幸	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	カラー図解 脳・神経のしくみ・はたらき辞典 野上春雄 著 (西東社) カラー図解 人体の正常構造と機能Ⅷ神経系(1) 河田光博・稲瀬正彦 著 (日本医事新報社) その他必要に応じてプリントを配布.
成績評価	定期試験. 60点未満の者は再試験の対象とする.
留意事項	予習・復習には十分時間をかけること. 教科書は毎回持参すること.

科目の目標	神経系・感覚器系の構造(形態)を学ぶことで,各器官との相互関係を知り,各疾患等の病態を理解する礎を築く.
授業概要	基本的には教科書に従って行なう.

日程

回 数	授業内容
1	神経系1 神経系の総論ならびに概要(神経組織,神経膠細胞)
2	神経系2 中枢神経 脊髄,延髄,橋,中脳,小脳
3	神経系3 中枢神経 脊髄,延髄,橋,中脳,小脳
4	神経系4 中枢神経 間脳,大脳(機能局在,基底核含む)
5	神経系5 脳の血管,脳室系,髄膜,脳脊髄液
6	神経系6 伝導路・脳神経2
7	神経系7 中枢神経2～6の復習
8	神経系8 脊髄神経 頸神経,皮神経,全体像
9	神経系9 脊髄神経 腕神経叢,胸神経,デルマトーム
10	神経系10 脊髄神経 腰神経叢,仙骨神経叢
11	神経系11 神経系6～10の復習
12	感覚器系1 嗅覚器,視覚器(伝導路含む)
13	感覚器系2 平衡聴覚器,味覚器
14	感覚系の復習
15	定期試験
16	授業総括

科 目	生 理 学Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1 年次
		実施学期	後期
教 員 名	本 多 淳	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「標準生理学」小澤滯司/福田康一郎 監修(医学書院) 「人体の正常構造と機能 第3版」坂井建雄 編集(日本医事新報社)
成績評価	定期試験
留意事項	病理学や臨床医学各論の基礎となる科目のため理解することに重きをおく。

科目の目標	生体の正常な機能を理解することで、他の基礎分野・専門基礎分野・専門分野を学ぶ上での基礎を養い、はり師・きゅう師に必要な生体の機能を習得する。
授業概要	本講義では、消化と吸収、代謝、排泄について取り上げ、人体の生理を維持するメカニズムなどを学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	消化と吸収1：消化と吸収、消化管の運動(咀嚼、嚥下)、授業概要説明
2	消化と吸収2：消化管の運動、働き、消化液(胃)
3	消化と吸収3：消化管の運動、働き、消化液(小腸、膵臓、胆嚢)
4	消化と吸収4：消化管の運動、働き、消化液(小腸、大腸)
5	消化と吸収5：肝臓の働き、摂食の調節
6	代謝1：食品と栄養素(栄養素の働き)、代謝(栄養素のエネルギー、エネルギー代謝)
7	代謝2：各栄養素の働きと代謝(糖質、脂質)
8	代謝3：各栄養素の働きと代謝(タンパク質、ビタミン・無機質・水、代謝の調節)
9	消化吸収、代謝のまとめと復習
10	排泄1：腎臓の働き、腎循環
11	排泄2：尿生成(ネフロンと尿生成、糸球体濾過、尿細管の再吸収)
12	排泄3：尿生成(尿細管の分泌、腎機能の測定、尿の成分)腎臓と体液の調節
13	排泄4：蓄尿と排尿
14	排泄のまとめと復習
15	定期試験
16	解答と解説

科 目	生理学Ⅳ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	根本 香代	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	小テストと課題提出(20%)，定期試験(80%)を総合的に評価する。 総合評価，または定期試験が60点に満たない者は再試験とする。
留意事項	授業をよく聞き，復習を必ず行なうこと。

科目の目標	生体は生命を維持するために，内部環境の恒常性を保っている。生理学では，われわれの身体がこの恒常性を維持するためにどのように働いているかを主として各器官系別に学ぶ。本科目の生理学Ⅳにおいては，神経および感覚の機能について学ぶ。
授業概要	教科書に沿って生理学の知識を深めていく。随時，小テストを行い，理解の度合いを確認しながら進める。

日程

回 数	授業内容
1	神経：ニューロンの構造と働き，神経線維の興奮伝導
2	神経：シナプス伝達
3	神経：中枢神経系の分類と機能
4	神経：反射，脊髄，脳幹
5	神経：小脳，視床，視床下部
6	神経：大脳，脳脊髄液
7	神経：末梢神経系の分類と機能
8	神経：自律神経系Ⅰ
9	神経：自律神経系Ⅱ
10	感覚：感覚の分類と一般的性質
11	感覚：体性感覚
12	感覚：内臓感覚，痛覚
13	感覚：味覚と嗅覚，聴覚，平衡感覚
14	感覚：視覚
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	医療概論	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	棚田 徹也	教員区分	一般教員

教科書	「医療概論」 中川米造 監修（医歯薬出版）
参考書	授業内で紹介する。
成績評価	定期試験にて行う。
留意事項	授業で扱えるのは医療概論に含まれる事項のごく一部である。将来に渡り継続して学習する心構えを持ちたい。特に、現在生じている保健・医療・福祉における諸問題については絶えず関心を払うこと。

科目の目標	医療についての基本を把握し、現在の自分にとっての「医療とは何か」を認識する。 現代日本の医療状況を知り、将来の医療はどうあるべきかを考え、医療人としての自らの将来像を構想する。
授業概要	医療についての基本を把握し、現在の自分にとっての「医療とは何か」を認識する。 現代日本の医療状況を知り、将来の医療はどうあるべきかを考え、医療人としての自らの将来像を構想する。

日程

回 数	授業内容
1	日本の保健・医療をめぐる基本状況
2	日本の医療制度と医療従事者、医学と医療の歴史（1）
3	日本の医療の問題点と地域医療、医学と医療の歴史（2）
4	医学と医療の歴史（3）、生命倫理（1）
5	医学と医療の歴史（4）、生命倫理（2）
6	統合医療と伝統医学、生命倫理（3）
7	定期試験
8	解答と解説、授業総括と補足

科 目	関係法規	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	棚田 徹也	教員区分	一般教員

教科書	「関係法規 第7版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	授業内で紹介する。
成績評価	定期試験で行う。
留意事項	はり師・きゅう師として適正に活動するためにはどうすれば良いのか、あはき師制度の基礎事項を理解して下さい。 自分や周囲の人々などが保健・医療・福祉の分野において、知りたいこと・困っていること・疑問に思っていることにはどんなものがあるのか、考えてみて下さい。

科目の目標	あはき師に関わる法令の基本を理解する。 日本の保健・医療・福祉に関わる制度の基本を理解する。
授業概要	鍼灸師にとって最低限必要な法令を学ぶ。 将来必要に応じて法令の内容を調べ、理解するための基礎力を身に付ける。 地域の医療者として市民に対し助言・援助ができるようになるため、諸制度の基本を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	法制度と法・法令・法律, あはき施術の法的位置付け
2	医療資格とあはき師免許
3	あはき師の業務
4	施術所と広告制限, 秘密保持義務
5	医療法と薬事法規
6	社会保険, 公的医療保険
7	定期試験
8	解答と解説, 授業総括と補足

科 目	経絡経穴概論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	内藤 玄吾	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)		
参 考 書	「ツボがある本当の意味」	栗原誠 著	(BABジャパン)
	「針灸学〔経穴編〕」	兵頭明 翻訳	(東洋学術出版社)
	「経穴主治症総覧」	池田政一 編著	(医道の日本社)
	「臨床経穴ポケットガイド」	篠原昭二 著	(医歯薬出版)
	「鍼灸経穴辞典」	天津中医薬大学 編	(東洋学術出版社)
	「カラー版 経穴マップ 第2版」	王曉明 著	(医歯薬出版)
成績評価	経穴名の暗唱2割, 小テスト3割, 定期試験5割による総合評価。 定期試験ないし総合点が60点に満たない者は再試験とする。		
留意事項	授業内で経穴名, 取穴法が覚えられるよう集中して臨むこと。 授業内だけで覚えられる量では無いので, 自宅での学習に努めること。 授業中のスマートフォンの利用は原則禁止とする。使用を注意された場合は4点の減点とする。 進行状況に応じシラバスは前後します。		

科目の目標	経絡経穴についての基礎的知識（経絡名・経穴名・取穴部位）を理解習得し、鍼灸師としての基礎を作る。
授業概要	講義では経穴名の由来と主治について学び、それを基にイラストで部位を確認していく。

日程

回 数	授 業 内 容
1	2章 十四経脈とその経穴 足の太陽膀胱経①
2	2章 十四経脈とその経穴 足の太陽膀胱経②
3	2章 十四経脈とその経穴 足の太陽膀胱経③
4	2章 十四経脈とその経穴 足の少陰腎経①
5	2章 十四経脈とその経穴 足の少陰腎経②
6	2章 十四経脈とその経穴 手の厥陰心包経・手の少陽三焦経①
7	2章 十四経脈とその経穴 手の少陽三焦経②
8	2章 十四経脈とその経穴 手の少陽三焦経③
9	2章 十四経脈とその経穴 足の少陽胆経①
10	2章 十四経脈とその経穴 足の少陽胆経②

1 1	2 章 十四経脈とその経穴 足の少陽胆経③
1 2	2 章 十四経脈とその経穴 足の厥陰肝経①
1 3	2 章 十四経脈とその経穴 足の厥陰肝経②
1 4	まとめ
1 5	定期試験
1 6	解答・解説

科 目	東洋医学概論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	飯塚 聡	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	適宜紹介する。
成績評価	小テスト1回(10%)・定期試験(90%)の結果を主とし、授業へ参加する姿勢も考慮の対象とする。
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。必ず復習をし、不明点は質問して疑問を持ち越さないこと。

科目の目標	前期で学んだ東洋医学の知識を基礎に、より専門的な内容を理解する。 経絡や四診法などを理解し、国家試験や臨床に必要な基礎力を固める。
授業概要	東洋医学の基礎知識や成立の背景、人体の見方やその生理・病理を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	第2章 生理と病理：前期の復習、五臓とその機能に関連した領域(心・小腸)
2	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域(脾・胃)
3	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域(肺・大腸)
4	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域(腎・膀胱)
5	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域(心包・三焦)
6	第2章 生理と病理：五臓の相互関係①
7	第2章 生理と病理：五臓の相互関係②
8	第2章 生理と病理：六腑の協調関係
9	第2章 生理と病理：全身の気機、経絡
10	第2章 生理と病理：病因病機
11	第2章 生理と病理：五臓の相互関係、経絡、病因病機の復習
12	第4章 四診：望診・聞診
13	第4章 四診：問診
14	第4章 四診：切診、試験範囲の復習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説、1年間のまとめ

科 目	臨床鍼灸学Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教科書	「はりきゅう理論 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「解剖学 第3版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) ほか配布物を用意いたします。		
参考書	「改訂版 フォトサイエンス生物図録」 (数研出版) 「鍼灸臨床の科学」 西條一止／熊澤孝朗 監修 (医歯薬出版) 「自律神経機能検査 第5版」 日本自律神経学会 編 (文光堂)		
成績評価	提出物(配布・配信で通知)の点数(20%)と期末筆記試験の点数(80%)により総合評価 期末筆記試験ないし総合点が60%に満たない者は再試験とする。		
留意事項	実験機材による医学的検査や操作原理の解説などを行います。		

科目の目標	鍼灸領域に関わる生理学の循環系・神経系の専門用語を覚えて内容を記述・説明できる。 生体刺激への反応を観察する検査機器の使用意義を理解する。
授業概要	主に生理学教科書と研究論文や文献などで解説されている内容を鍼灸の専門家として理解できる様、専門用語や難読文字の理解を目指します。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション。学習手順・記憶手順についての確認。
2	教科書の使用方法について。生理学分野の学習(各章の関連性)
3	生理学分野の学習(循環系の生理学)
4	生理学分野の学習(自律神経系の概要)
5	生理学分野の学習(循環系の機能/アナトマージテーブル使用(予定))
6	生理学分野の学習(神経系の基礎/心電計使用(予定))
7	生理学分野の学習(自律神経系の概要/心電計使用(予定))
8	生理学分野の学習(循環調節系の概要/心電計使用(予定))
9	生理学分野の学習(運動負荷試験などに対する循環系の応答)
10	生理学分野の学習(鍼の観察/鍼刺激に対する循環系の応答)

1 1	生理学分野の学習(灸の観察/灸刺激に対する皮膚温の変化)
1 2	生理学分野の学習(感覚生理/軸索反射(皮膚フレアー反応))
1 3	試験問題の読解・解答方法について
1 4	まとめ
1 5	定期試験
1 6	試験解答と解説, 授業総括

科 目	臨床経穴実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	前窪 美香	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「プロメテウス 解剖学アトラス 総論/運動器系」(医学書院) 「カラー版 経穴マップ 第2版」王曉明 著 (医歯薬出版)
成績評価	実技試験, 出席, 授業態度を総合的に評価する。
留意事項	必ず経穴名と部位の予習をして授業に臨み, 復習をすること。 取穴し易い服装を準備すること。 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること (ふさわしくない身だしなみー4点)。 遅刻・早退・欠席をしないこと (欠席ー6点、遅刻・早退ー2点)。 授業中のスマートフォンの利用は原則禁止とする。使用を注意された場合は4点の減点とする。

科目の目標	経絡の流注を理解し, 経穴の取穴法を習得する。 経穴の部位と局所解剖についても学習し習得する。
授業概要	経絡経穴概論で学習した経穴の取穴を行う。 担当教員により局所解剖と取穴の説明, ペアもしくはグループでの触擦・取穴を行う。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション, 触れ方, 手の太陰肺経
2	手の陽明大腸経
3	任脈
4	足の陽明胃経
5	足の太陰脾経
6	手の少陰心経・手の太陽小腸経
7	督脈
8	足の太陽膀胱経①
9	足の太陽膀胱経②
10	足の少陰腎経

1 1	手の厥陰心包経
1 2	手の少陽三焦経
1 3	復習
1 4	実技試験
1 5	実技試験フィードバック
1 6	総復習

科 目	鍼基礎実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時間数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	後期
教員名	北園 実鈴	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技 第2版<基礎編>」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	実技試験・実習態度・出席状況を総合して評価する。
留意事項	実習内容について毎日反復練習に努めること。 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること (ふさわしくない身だしなみ－4点)。 基礎実習が将来の臨床へとつながるので、遅刻、早退、欠席をしないよう体調をしっかりと管理すること (欠席－6点、遅刻・早退－2点)。

科目の目標	刺鍼の基本および身体各部への安全な刺鍼法を習得する。
授業概要	刺鍼に必要な基礎知識を学習する。衛生管理 (用具・手指などの清潔保持、消毒)、治療過誤の概要を学び安全な刺鍼法を十分に理解する。 局所解剖所見を踏まえ全身の身体各部に安全に刺入できる知識と技術 (長さ、太さの異なる鍼を使用) を習得する。

実務経験	鍼灸接骨院で勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った刺鍼技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション, 大腿部 (各自) 直刺 (ステンレス鍼)
2	身体各部の刺鍼 (対人) : 大腿 直刺
3	身体各部の刺鍼 (対人) : 大腿 斜刺
4	身体各部の触診 (対人) : 腰部・背部のランドマークの確認, タオルワーク
5	身体各部の刺鍼 (対人) : 腰部 直刺
6	身体各部の刺鍼 (対人) : 腰部 斜刺
7	十七手技①
8	十七手技②
9	身体各部の刺鍼 (対人) : 下腿
10	身体各部の刺鍼 (対人) : 前腕

1 1	身体各部の刺鍼（対人）：腰部または後頸部
1 2	身体各部の刺鍼（対人）：腰部
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	フィードバック，総合刺鍼
1 6	総合刺鍼

科 目	灸基礎実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教 員 名	割田 萌	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技く基礎編」第2版（公社）東洋療法学校協会編（医道の日本社）
参考書	「はりきゅう理論」（公社）東洋療法学校協会編（医道の日本社）
成績評価	実技試験7割，小テスト3割に出席状況と身だしなみを総合して評価する。 実技試験ないし、総合評価が6割に満たないものは再試験とする。
留意事項	火の取り扱いに十分注意し，自宅でも反復練習に努めること。 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること（ふさわしくない身だしなみ－4点）。 遅刻・欠席をしないこと（欠席－6点，遅刻－2点）。 対人施灸では，感受性の差異に留意し，参加にあたっては体調管理に努めること。

科目の目標	灸に関する基礎的な知識，技術を習得し，人体施灸（透熱灸）を安全かつ確実に行える技術・態度を身に付ける。
授業概要	温度管理の出来る程度の技量を習得し，学生同士での人体施灸を行う。

実務経験	鍼灸院で勤務。
実務経験と授業の関連	臨床で培った技術を授業に取り入れる。

日程

回 数	授業内容
1	授業の概要と進め方，諸注意，灸基礎実習Ⅰの復習
2	灸の基礎知識，施灸練習（紙上施灸，竹上への艾炷作成）①
3	灸の基礎知識，施灸練習（紙上施灸，竹上への艾炷作成）②
4	灸の基礎知識，施灸練習（紙上施灸，灸温度計）①
5	灸の基礎知識，施灸練習（紙上施灸，灸温度計）②
6	灸の基礎知識，施灸練習，消毒操作，人体施灸（自身への施灸）①
7	灸の基礎知識，施灸練習，人体施灸（自身への施灸）②
8	灸の基礎知識，施灸練習，人体施灸（自身への施灸）③
9	灸の基礎知識，施灸練習（紙上施灸），人体施灸（対人施灸）①
10	灸の基礎知識，施灸練習（紙上施灸），人体施灸（対人施灸）②

1 1	灸の基礎知識, 施灸練習 (紙上施灸), 人体施灸 (対人施灸) ③
1 2	灸の基礎知識, 施灸練習 (紙上施灸), 人体施灸 (対人施灸) ④
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	試験フィードバック
1 6	総合復習

科 目	トレーニング実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時間数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	後期
教員名	小笠原 京哉	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会 編(医師薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会 編(医師薬出版)
参考書	適宜紹介
成績評価	実技試験7割, 小テスト3割, 出席点(1回欠席-6点, 遅刻・早退-2点)の総合評価。実技試験もしくは総合評価が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	動きやすい服装(実習着等)を準備すること。 解剖学の教科書を必ず持参すること。 骨・筋の予習をして授業に臨み, 復習をすること。 小テストが規定の点数に満たない者は, 随時再テスト or レポート提出を実施する。 ※授業内容は進行状況で一部変更することもある。

科目の目標	運動器の解剖・生理について理解し, トレーニングの基礎知識を身に付け, 鍼灸臨床やスポーツ現場に応用できる能力を養う。
授業概要	解剖学・生理学の知識を基に, ペアまたはグループで筋骨格系の運動を体験する。

日程

回 数	授業内容
1	体力学総論
2	トレーニング理論
3	運動生理学
4	スポーツ医学
5	コンディショニング論
6	ストレッチ理論
7	評価・プログラム設計①
8	評価・プログラム設計②
9	評価・プログラム設計③
10	トレーニング演習①
11	トレーニング演習②
12	トレーニング演習③
13	トレーニング演習④
14	実技試験①
15	実技試験②
16	実技試験フィードバック

科 目	人間学Ⅲ (心理学・コミュニケーション)	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義演習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	滝本 祥子	教員区分	一般教員

教科書	指定なし（毎回の授業で授業プリント冊子を配布し，利用する）
参考書	適宜，授業の進行に合わせ紹介する．
成績評価	①定期試験，②講義後のふりかえりシートや課題による総合評価で，その割合は①：②＝80：20である． 定期試験ないし総合評価が6割未満の者は再試験の対象とする．
留意事項	遅刻せず出席すること

科目の目標	国家資格取得に必要なスキルを身につけ，また現場で必要とされる患者とのコミュニケーションスキルを身につける．
授業概要	国家資格を取得するという目標をどのように達成すればよいのかを，ともに考えていく．患者とのコミュニケーションスキルを身につけるためには，まず自分自身を見つめなおすことから始まる．自分は日ごろどのようなことをとらえているのか（考え，認知）を考えるということが大事である．また，つらい気持ちのもとになっている問題をどのように解決していくのかについても学ぶ．相手（患者など）を思いやり，自分を大切にするコミュニケーションについて，考えていくことにする．

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・自己紹介 講義の概要についての説明
2	目標に具体性を与える
3	目標達成への行動計画をつくる
4	目標までの距離を意識する
5	「成長すること」に集中する
6	「やりぬく力」を持つ
7	筋肉を鍛えるように意志力を鍛える
8	こころの整理法について
9	こころを整理するスキル1：できごと・考え・気分をつかまえる
10	こころを整理するスキル2：友だちの悩みを整理する
11	こころを整理するスキル3：自分の悩みを整理する
12	問題解決のスキル：自分の問題に取り組む
13	コミュニケーションスキル：傾聴訓練1
14	コミュニケーションスキル：傾聴訓練2

1 5	定期試験
1 6	全体の振り返りと共有

科 目	解剖学Ⅵ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	島田 和幸	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)		
参 考 書	「人体の正常構造と機能」坂井建雄 著 (日本医事新報社)		
	「全部わかる人体解剖図」坂井建雄 著 (成美堂出版)		
	「からだの地図帳」高橋長雄 著 (講談社)		
	「解剖生理」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)		
	その他必要に応じてプリントを配布。		
成績評価	定期試験で評価し、60点以上を合格とする。		
留意事項	予習・復習を行った上で、授業に臨むこと。 欠席・遅刻に留意し、集中して授業に参加すること。		

科目の目標	人体構造についてよく理解する。
授業概要	教科書に従って行う。

日程

回 数	授 業 内 容
1	脈管系 1
2	脈管系 2
3	脈管系 3
4	脈管系 4
5	呼吸器系 1
6	呼吸器系 2
7	消化器系 1
8	消化器系 2
9	消化器系 3
10	消化器系 4
11	泌尿器系・生殖器系 1
12	泌尿器系・生殖器系 2
13	泌尿器系・生殖器系 3
14	内分泌系
15	定期試験
16	授業総括

科 目	運動学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	塚本 晃介	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 第3版」 (公社) 東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「新版 リハビリテーション医学」 (公社) 東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「基礎運動学 第6版」 中村隆一・齋藤宏・長崎浩 著 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	臨床でも大切な内容であり、また範囲が広い内容であるため、予習・復習に努めること。

科目の目標	筋・運動学・身体各部の機能について理解し、臨床に必要な運動学の知識を理解する。
授業概要	筋・運動学・身体各部の機能について重要なところを解説し、鍼灸師として応用できるよう授業する。

日程

回 数	授業内容
1	運動学ガイダンス、筋収縮の仕組み、筋のエネルギー代謝
2	心筋と平滑筋、骨格筋の神経支配
3	運動の調節1 脊髄反射
4	運動の調節2 脳が関する反射、錐体路系・錐体外路系・発声と言語
5	身体各部の機能1 (脊柱・体幹の機能)
6	身体各部の機能2 (脊柱・体幹の機能) (肩甲帯・肩の機能)
7	身体各部の機能3 (肩甲帯・肩の機能)
8	身体各部の機能4 (肩甲帯・肩の機能) (肘と前腕の機能)
9	身体各部の機能5 (手と手指の機能)
10	身体各部の機能6 (骨盤と股関節の機能)
11	身体各部の機能7 (骨盤と股関節の機能)
12	身体各部の機能8 (膝関節の機能) (足の機能)
13	姿勢と歩行
14	復習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	病理学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	前期
教 員 名	内藤 玄吾	教員区分	一般教員

教 科 書	「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	「カラーで学べる病理学 第6版」 渡辺照男・浅田祐士郎編 (ヌーヴェルヒロカワ)
成績評価	定期試験
留意事項	基本となる生理学の復習を行うこと。 授業中のスマートフォンの使用は禁止する。使用を注意された場合は-4点とする。

科目の目標	病理の基礎を学び、臨床医学各論で学ぶ疾病の病態が、どのような機序になっているか理解する。
授業概要	教科書に沿う様な形で、重要なところをわかりやすく解説・講義する。

日程

回 数	授業内容
1	病理概論・病因 1
2	病因 2
3	循環障害 1
4	循環傷害 2
5	退行性病変 1
6	退行性病変 2, 進行性病変 1
7	進行性病変 2
8	炎症 1
9	炎症 2
10	腫瘍 1
11	腫瘍 2
12	免疫異常・アレルギー 1
13	免疫異常・アレルギー 2
14	先天性異常
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学総論Ⅰ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版社)		
参 考 書	「臨床医学各論 第2版」	(公社)東洋療法学校協会編	(医歯薬出版社)
	「生理学 第3版」	(公社)東洋療法学校協会編	(医歯薬出版社)
	「写真で学ぶ整形外科テスト法」	ジョセフ J・シプリアーノ 著	(医道の日本社)
	「診察と手技がみえる」	田邊政裕編集	(メディックメディア)
成績評価	定期試験		
留意事項	臨床医学各論、病理学、鍼灸臨床評価実習と併せた学習を行うこと。		

科目の目標	医療従事者として臨床に不可欠な診察法、検査法の基礎知識を身に付け、鍼灸臨床に応用できる能力を養う。またその知識を活用し患者の訴える症状から正しい鑑別診断ができることを目標とする。
授業概要	症状・所見から疾患の把握や診断に結び付けられるように、それぞれの特徴について講義する。

日程

回 数	授業内容
1	授業概要, 第1・2章 診察の方法
2	第3章 生命徴候の診察1
3	第3章 生命徴候の診察2
4	第4章 全身の診察1
5	第4章 全身の診察2
6	第4章 全身の診察3
7	第4章 全身の診察4
8	第5章 局所の診察1
9	第5章 局所の診察2
10	第5章 局所の診察3
11	第5章 局所の診察4
12	第6章 神経系の診察1
13	第6章 神経系の診察2
14	第6章 神経系の診察3 まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学各論Ⅰ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	前窪 美香	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「病気が見える vol.11 運動器・整形外科」(メディックメディア) 「ビジュアルノート 第5版」医療情報科学研究所編(メディックメディア)
成績評価	小テスト3割, 定期試験7割の総合評価とし, 期末試験かつ総合評価で60点に満たないものは再試験対象とする。
留意事項	解剖学・生理学の復習を行うこと。

科目の目標	整形外科疾患の基本的な知識を習得する。
授業概要	整形外科疾患の病態を把握し, 鍼灸治療の適応, 不適応の鑑別診断を行えることを目標とし, 実際の臨床に適応できるようにする。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション 総論
2	外傷①(骨折・脱臼・捻挫)
3	形態異常
4	関節疾患①(関節炎、変形性関節症)
5	関節疾患②(肩関節周囲炎・手指の変形)
6	筋・腱疾患・骨代謝性疾患・骨腫瘍
7	脊椎疾患①(後縦靱帯骨化症・椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症)
8	脊椎疾患②(変形性脊椎症・脊椎分離・すべり症)
9	脊椎疾患③(頸椎捻挫・むち打ち損傷・腰椎症)
10	脊髄損傷
11	外傷②(スポーツ外傷・障害)
12	その他の整形外科疾患
13	総復習①
14	総復習②
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学各論Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「病気が見える」シリーズ (メディックメディア) 「解剖学 第2版」,「生理学 第3版」,「解剖生理 第1版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学総論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験により評価
留意事項	病態理解を目標とする為, 漫然と単語を暗記する作業に陥らないように注意する事. 各病態の関連性から, 教科書の順序と若干異なる進捗となるので気を付ける事.

科目の目標	臨床医学各論の分野における, 感染症, 呼吸器疾患, 循環器疾患, 血液造血器疾患について疾患名称とその病態把握を目指す.
授業概要	配布物を中心に, 各疾患についての概念, 症状, 診断, 治療, 経過予後を学習する.

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション, 循環器疾患1 (心臓疾患1)
2	循環器疾患2 (心臓疾患2)
3	循環器疾患3 (冠動脈疾患, 動脈疾患, 血圧異常)
4	呼吸器疾患1 (感染性呼吸器疾患 (風邪症候群・肺炎・肺結核))
5	呼吸器疾患2 (閉塞性呼吸器疾患, 拘束性呼吸器疾患)
6	呼吸器疾患3 (その他の呼吸器疾患 (悪性腫瘍・機能性疾患))
7	感染症1 (総論/細菌感染症)
8	感染症2 (細菌感染症/ウイルス感染症)
9	感染症3 (ウイルス感染症/食中毒 (細菌性・ウイルス性・原虫性))
10	感染症4 (性感染症)
11	血液・造血器疾患1 (赤血球疾患)
12	血液・造血器疾患2 (白血球疾患)
13	血液・造血器疾患3 (リンパ網内系疾患, 出血性素因)
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	経絡経穴概論Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	棚田 徹也	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「新版 東洋医学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)」 (公社)東洋療法学校協会編 (南江堂) 「中医薬大学全国共通教材 全訳 経絡学」李鼎主編・浅野周訳 (たにぐち書店 2000年) その他、授業内で随時紹介する。
成績評価	定期試験60%以上、及び課題提出(5%評価)を加えた総合点60%以上で合格となる。
留意事項	実技等他教科においても経絡・経穴との関連を常に意識されたい。

科目の目標	経絡経穴の基礎知識を拡充し、臨床における選穴の基本を身に付ける。
授業概要	各経脈の流注について詳細を知り、病証との関係を理解し、臨床応用の基礎を身に付ける。 要穴の種類とその意味、使用法について整理し身に付ける。 病証に応じた選穴法について学ぶ。主要な経外奇穴の部位と適応を習得する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション, 経絡経穴の歴史, 経絡とは, 選穴法の種類
2	循経取穴と経脈流注, 経脈病証①.
3	循経取穴と経脈流注, 経脈病証②. 要穴の概要
4	循経取穴と経脈流注, 経脈病証③. 要穴①
5	循経取穴と経脈流注, 経脈病証④. 要穴②
6	循経取穴と経脈流注, 経脈病証⑤. 要穴③
7	循経取穴と経脈流注, 経脈病証⑥. 要穴④
8	要穴の用法 交会穴
9	経験的選穴法 特効穴 経外奇穴①
10	奇経八脈の流注と病証・経穴①. 経外奇穴②
11	奇経八脈の流注と病証・経穴②. 経外奇穴③
12	奇経八脈の流注と病証・経穴③.
13	八脈交会穴 病証に応じた選穴法
14	総復習
15	定期試験
16	解説・解答, 補足

科 目	東洋医学臨床論Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	石田 大弥	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」(公社)東洋療法学校協会編 (南江堂) 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	プリントを配布
成績評価	定期試験
留意事項	東洋医学概論, 経絡経穴の知識が必要となる授業です.

科目の目標	各愁訴・疾患における東洋医学的な病因病機を理解し, 鍼灸処方を組み立てられること
授業概要	東洋医学的な病因病機・処方を座学形式で学ぶ

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション/1年生の復習(臓腑, 生理物質の生理・病理)
2	1年生の復習(四診)
3	1年生の復習(弁証)
4	頭痛
5	治療穴とその応用/手技と手法
6	顔面痛/関節痛
7	頸肩腕痛/上肢痛/肩関節痛/膝痛
8	腰下肢痛/腰痛/下肢痛
9	胸痛/腹痛
10	眼精疲労/気分障害(うつ状態)
11	めまい/動悸・息切れ
12	血圧異常/睡眠障害
13	食欲不振/肥満
14	やせ(るい瘦)
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	現代医学臨床論Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	椎野 崇	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学臨床論 (はりきゅう編)」(公社)東洋療法学校協会編 (南江堂)
参考書	「臨床医学各論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ」 矢野 忠 編集 (文光堂)
成績評価	期末試験により評価する。60点未満の場合は再試験とする。
留意事項	積極的に受講し授業内容を復習すること。関連する解剖学、生理学、臨床医学、経絡経穴も合わせて復習すること。教科書・プリントは指示がなくても毎回持参すること。進行状況によりシラバスの内容が変更される場合あり。

科目の目標	レッドフラッグを含む疾患の鑑別ができるようになること、患者に対し病態、治療の効果およびリスク、予後、生活指導などが説明できるようになること、実際に適切に治療できるようになることを目標とする。
授業概要	疾患ごとに教科書に沿って解説し、臨床で実践できるように講義する。

日程

回 数	授業内容
1	第1節 鍼灸臨床 関節痛
2	頸肩腕痛
3	上肢痛
4	肩関節痛
5	腰下肢痛
6	腰痛
7	下肢痛
8	膝痛
9	頭痛
10	顔面痛, 歯痛
11	顔面麻痺
12	眼精疲労、めまい
13	耳鳴りと難聴
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床評価実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学総論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「新版 リハビリテーション医学」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「診断と手技がみえる①」 (メディックメディア) 「病気がみえるシリーズ」 (メディックメディア)
成績評価	定期試験にて評価する
留意事項	医療従事者としてふさわしい服装で参加すること (ふさわしくない身だしなみ－4点) . 遅刻・欠席をしないこと (欠席－6点, 遅刻－2点) . 指示以外のことは行わないこと.

科目の目標	検査をする疾患等の病態生理を把握する。 実際の鍼灸臨床の現場で用いる事が出来る所見や検査・評価項目を習得する。
授業概要	所見や検査・評価項目の意義や方法を資料や教員の講義・デモンストレーションにて理解し、学生同士で練習を行う。 各所見や評価項目毎に知識を整理する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、徒手筋力検査①
2	徒手筋力検査②
3	徒手筋力検査③
4	徒手筋力検査④
5	反射検査①
6	反射検査②
7	感覚検査①
8	感覚検査②
9	脳神経の検査①
10	脳神経の検査②
11	脳神経の検査③
12	総復習
13	実技試験
14	実技試験
15	実技試験フィードバックと評価
16	まとめ

科 目	臨床経穴実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	割田 萌・前窪 美香	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」(医学書院) 「カラー版 経穴マップ 第2版」王 曉明(医歯薬出版株式会社)
成績評価	実技試験7割, 小テスト3割, 出席点(1回欠席-6点・遅刻・早退-2点), 授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。 実技試験もしくは総合評価が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	経絡経穴概論の教科書を必ず持参すること。 必ず経穴名と部位の予習をして授業に臨み, 復習をすること。 シラバスを参照し, 取穴し易い服装で臨むこと。 小テストが規定の点数に満たない者は随時再テストを実施する。

科目の目標	経絡の流注を理解し, 経穴の取穴法を習得する。 経穴の部位と局所解剖についても学習し習得する。
授業概要	四肢の経穴を中心とした取穴を行う。 小テストによる知識の確認, 担当教員による局所解剖と取穴の説明・デモンストレーション, 各自での触擦・取穴を行う。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション, 足の少陽胆経
2	足の厥陰肝経
3	要穴①
4	要穴②
5	要穴③
6	要穴④
7	要穴⑤
8	要穴⑥
9	要穴⑦
10	要穴⑧

1 1	要穴⑨
1 2	要穴⑩
1 3	実技試験①
1 4	実技試験②
1 5	実技試験フィードバック
1 6	総復習

科 目	触診触擦実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	浅野 貴之	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「新版 東洋医学臨床論 <はりきゅう編>」 (公社)東洋療法学校協会編 (南江堂)
参考書	「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系」 (医学書院)
成績評価	実技試験, 出席点 (1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点), 授業態度 (ふさわしくない身だしなみ1回-4点), 授業参加度 (モデルなど) を総合的に評価する。 実技試験点が60点未満の者, あるいは総合点が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	・体調管理 (睡眠, 食事など) に努め, 実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・1回完結の授業の為, できるだけ休まないこと。 ・授業中にできるだけ多くの人の体を借りて, 経験を積むことでどんな体格でも触察できるようにすること。 ・臨床実習を意識し, 言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・触察部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・触察部位の構造 (骨, 筋, 靱帯, 神経, 血管) を必ず復習しておくこと。

科目の目標	「現代医学臨床論Ⅰ」で学習した各部位における症候に対し, 障害を起こしやすい組織 (筋・神経・関節など) を中心に触察および患者を想定した, 触診 (触り方) を習得する。さらに, 体格 (男女や筋の発達度合い, 脂肪の量など) による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて, 各症候で障害を起こしやすい組織の触察・触診見本を提示し, 感触を経験した後に, 各ペアで触察・触診をおこなう。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・基本的な触診方法
2	横刺，通電機器説明および物理療法の禁忌と適応．前頭筋・前脛骨筋触擦
3	肩こりの診察および触擦：僧帽筋（上部線維），肩甲挙筋
4	頸肩腕痛の診察および触擦①：頸椎棘突起および椎間関節
5	頸肩腕痛の診察および触擦②：頸椎横突起，前・中斜角筋，小胸筋，鎖骨下筋
6	肩関節痛の診察および触擦：肩甲骨，三角筋，棘上筋，棘下筋，大・小円筋，広背筋，結節間溝
7	肘痛の診察および触擦：上腕骨外側上顆，R-H ギャップ，総指伸筋，腕橈骨筋
8	腰部痛の診察および触擦：腸骨稜，腰椎棘突起，上後腸骨棘，仙骨上縁，第 12 肋骨先端，多裂筋，腸腰筋，（腰方形筋）
9	下肢痛の診察および触擦：大腿骨大転子，梨状筋，大腿二頭筋長頭，半腱様筋，下肢動脈触診
10	膝痛の診察および触擦： 大腿骨および脛骨内側・外側上顆，大腿四頭筋，縫工筋，薄筋，大・長内転筋，膝窩筋
11	下腿痛の診察および触擦： 前・後距腓靱帯，踵腓靱帯，長・短腓骨筋，前脛骨筋，腓腹筋，ヒラメ筋
12	頭痛の触診および触擦：浅側頭動脈，大耳介神経溝，上頭斜筋，大・小後頭直筋
13	実技試験①
14	実技試験②
15	フィードバック
16	総復習

科 目	鍼灸応用実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教 員 名	浅野 貴之	教員区分	実務教員

教科書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「新版 東洋医学臨床論 くはりきゅう編」 (公社)東洋療法学校協会編 (南江堂)
参考書	「プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系」 (医学書院)
成績評価	実技試験, 出席点 (1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点), 授業態度 (ふさわしくない身だしなみ1回-4点), 授業参加度 (モデルなど) を総合的に評価する。 実技試験点が60点未満の者, あるいは総合点が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	・体調管理 (睡眠, 食事など) に努め, 実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・1回完結の授業の為, できるだけ休まないこと。 ・授業中にできるだけ多くの人の体を借りて, 経験を積むことでどんな体格でも刺激できるようにすること。 ・臨床実習を意識し, 言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・刺激部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・刺激部位の構造 (骨, 筋, 靱帯, 神経, 血管) を必ず復習しておくこと。

科目の目標	「現代医学臨床論Ⅰ」で学習した各部位における症候に対し, 障害を起こしやすい組織 (筋・神経・関節など) を中心に刺激方法を習得する。 さらに, 男女や筋の発達度合い, 脂肪の量による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて, 各症候で障害を起こしやすい組織の刺激見本を提示し, 鍼灸の感触を経験した後に, 各ペアで刺激練習をおこなう。

実務経験	付属鍼灸院で勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った鍼灸の技術を授業に取り入れる。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・基本的な刺鍼方法：大腿四頭筋，髂門穴付近
2	鍼通電療法(EAT)の実際，前脛骨筋，前頭筋
3	肩こりの刺鍼：僧帽筋(上部線維)，肩甲挙筋
4	頸椎症の刺鍼：頸部椎間関節
5	胸郭出口症候群の刺鍼：前・中斜角筋，小胸筋，鎖骨下筋
6	肩痛の刺鍼：三角筋，棘上筋，棘下筋，大・小円筋，上腕二頭筋長頭腱
7	肘痛の刺鍼：総指伸筋（4指線維），腕橈骨筋，R-H ギャップ
8	腰部痛の刺鍼：腸腰筋（衝門穴），多裂筋
9	坐骨神経痛の刺鍼：梨状筋，坐骨神経
10	膝痛の刺鍼：大腿四頭筋，大・長内転筋，膝窩筋，膝窩動脈
11	下腿痛の刺鍼：長・短腓骨筋，腓腹筋(外側頭・内側頭)，ヒラメ筋
12	頭痛の刺鍼：浅側頭動脈，上頭斜筋，大・小後頭直筋，大耳介神経
13	実技試験①
14	実技試験②
15	フィードバック
16	総復習

科 目	臨床実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	90
		履修年次	2年次
		実施学期	前・後期
教 員 名	原島 基 他	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし
成績評価	評価表に基づく
留意事項	臨床の場にふさわしい服装、態度で臨むこと

科目の目標	実際の臨床現場をしっかりと把握、理解し、適切な行動、患者対応ができる
授業概要	鍼灸臨床に必要な患者対応の知識、技術を学習する 臨床実習上で必要な各種の動作を学ぶ

日程【前期】

回 数	授業内容
1	・オリエンテーション ・衛生管理、施術所内の環境把握、後片付け（原状復帰）、言葉遣い ・接遇、カルテ内容の把握、ワゴン準備、施術ブース内の環境把握、 ・鍼出し、リスク管理、患者誘導、タオルワーク、血圧測定、ROM ・抜鍼動作、廃棄物の処理、温灸の使い方、グループによるロールプレイ
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科 目	人間学Ⅱ	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	渡邊 智寛	教員区分	一般教員

教科書	使用しない。適宜資料を配布。
参考書	準備が必要なものはなし。 授業中に紹介する参考文献や資料を開講期間中に一読することを推奨。
成績評価	授業内小テスト 30%＋終講試験 70%（小テストを実施しない場合は終講試験のみで評価）
留意事項	時事問題を取り上げることが少なくない。「授業内容」に記載されているトピックに関わるニュースに普段から触れておくことが望ましい。

科目の目標	本科目では、生命倫理学の基本的な概念から、現代の医療倫理や社会的課題に関する理解を深めることを目指す。倫理学の枠組みを通じ、人工妊娠中絶、生殖補助医療、染色体異常、遺伝子操作、脳死と臓器移植、安楽死・尊厳死・治療停止などについて考察し、自己決定権と社会の関係を理解する。さらに、倫理的視点から人間の尊厳や自律尊重の重要性を探究し、個人と社会のバランスを考える能力を養う。
授業概要	生命倫理学全体を俯瞰的に概括したのち、各論を個別に検証する。それぞれの問題の構造を分析し、現状を理解する。さらに、問題解決への道筋についても検討する。

日程

回 数	授業内容
1	§ 1. 生命倫理学とは何か 倫理学の基本概念、生命倫理学の定義と問題の分類、医療専門職と社会の関わり
2	§ 2-1. 生命倫理学、誕生の背景① 1) 人体実験への反省と倫理、2) 医療技術の進歩と倫理的側面
3	§ 2-2. 生命倫理学、誕生の背景② 3) 医療従事者と社会の関係、変化する医療倫理と社会的要因
4	§ 3-1. 人工妊娠中絶① 日本の現状と歴史的経緯、国際比較
5	§ 3-2. 人工妊娠中絶② 関係法規と倫理的課題、生存権・選択権・優生思想と社会への影響
6	§ 4-1. 生殖補助医療① 一般不妊治療と高度不妊治療、望む子を得る権利と倫理的問題
7	§ 4-2. 生殖補助医療② 選択的出産と倫理的ジレンマ、技術の進歩がもたらす親子関係への影響
8	§ 5. 染色体異常 出生前診断と倫理的課題、新優生思想と社会的影響
9	§ 6. 遺伝子操作 遺伝子エンハンスメントと倫理、GM 食品の普及と社会の変化
10	§ 7-1. 脳死と臓器移植① パーソン論と脳死の倫理、生物学的死と社会的死

1 1	§ 7-2. 脳死と臓器移植② 判定基準の倫理的難点, 新たな要件と脳死の定義に関する議論
1 2	§ 8-1. 安楽死・尊厳死・治療停止① 安楽死・尊厳死の概念と事例, 安楽死許容条件の倫理的側面
1 3	§ 8-2. 安楽死・尊厳死・治療停止② リビング・ウィルとDNARの倫理, 死の迎え方と社会的影響
1 4	§ 9. 自律尊重・自己決定 社会の利益と個人の権利のバランス, 自己決定権の限界と倫理的課題
1 5	定期試験
1 6	定期試験の解答と解説, 授業総括

科 目	臨床医学総論Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	後期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教 科 書	「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)		
参 考 書	「臨床医学各論 第2版」	(公社)東洋療法学校協会編	(医歯薬出版)
	「生理学 第3版」	(公社)東洋療法学校協会編	(医歯薬出版)
	「解剖学 第2版」	(公社)東洋療法学校協会編	(医歯薬出版)
	「診察と手技がみえる」	田邊政裕 編集	(メディックメディア)
成績評価	定期試験		
留意事項	基礎となる解剖学, 生理学の復習や東洋医学臨床論と併せた学習を行うこと。		

科目の目標	医療従事者として臨床に不可欠な診察法を身に付け, 鍼灸臨床に応用できる能力を養う。またその知識を活用し患者の訴える症状から正しい鑑別診断ができることを目標とする。
授業概要	患者が訴える症状の原因疾患は何か, 病態生理を把握しながら学習する。

日程

回 数	授業内容
1	第6章 神経系の診察
2	第7章 運動機能検査 1
3	第7章 運動機能検査 2
4	第8章 その他の診察
5	第9章 臨床検査法 1
6	第9章 臨床検査法 2
7	第11章 治療学
8	第10章 おもな症状の診察 頭痛～難聴
9	第10章 おもな症状の診察 発疹～腹痛
10	第10章 おもな症状の診察 のぼせ冷え～下痢
11	第10章 おもな症状の診察 肩こり～運動麻痺
12	第10章 おもな症状の診察 不眠～嚥下困難
13	第10章 おもな症状の診察 発熱～浮腫
14	第10章 おもな症状の診察 血痰喀血～意識障害
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学各論Ⅲ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	山 田 智	教員区分	一般教員

教 科 書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)		
参 考 書	「なるほどなっとく内科学」	浅野嘉延 編集	(南山堂)
	「病気が見える シリーズ」		(メディックメディア)
	「新版東洋医学臨床論はりきゅう編」	(公社)東洋療法学校協会編	(南山堂)
	「標準生理学 第8版」	小澤澗司・福田康一郎 監修	(医学書院)
	「解剖学講義 第3版」	伊藤隆 原著	(南山堂)
成績評価	定期試験により評価します。		
留意事項	解剖学, 生理学, 病理学, 臨床医学総論を復習してください。		

科目の目標	解剖・生理を踏まえながら, 代表的な疾患の病態生理の理解と把握, 検査方法を学ぶ。
授業概要	配布資料と口述, 画像や模式図, 板書などを用いて解説していきます。成績に反映しない小テストを各回配布して, 次の授業で解説を行い理解の進捗度を確認します。

日程

回 数	授業内容
1	消化管疾患①: 口腔疾患, 食道疾患, 小テスト配布
2	消化管疾患②: 胃・十二指腸疾患 1, 小テスト配布と前回小テスト解説
3	消化管疾患③: 胃・十二指腸疾患 2, 小テスト配布と前回小テスト解説
4	消化管疾患④: 腸疾患 1, 小テスト配布と前回小テスト解説
5	消化管疾患⑤: 腸疾患 2, 腹膜疾患, 小テスト配布と前回小テスト解説
6	肝・胆・膵疾患①: 肝臓疾患 1, 小テスト配布と前回小テスト解説
7	肝・胆・膵疾患②: 肝臓疾患 2, 小テスト配布と前回小テスト解説
8	肝・胆・膵疾患③: 胆道疾患, 小テスト配布と前回小テスト解説
9	肝・胆・膵疾患④: 膵臓疾患, 小テスト配布と前回小テスト解説
10	内分泌疾患①: 下垂体疾患, 甲状腺疾患①, 小テスト配布と前回小テスト解説
11	内分泌疾患②: 甲状腺疾患②, 副腎疾患, 小テスト配布と前回小テスト解説
12	代謝・栄養疾患①: 糖代謝, 脂質代謝, 小テスト配布と前回小テスト解説
13	代謝・栄養疾患②: 尿酸代謝, その他の代謝異常, 小テスト配布と前回小テスト解説
14	総まとめ, 前回小テスト解説
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学各論Ⅳ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	後期
教 員 名	原 島 基	教員区分	一般教員

教 科 書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参 考 書	「病気がみえる Vol. 7 脳・神経」 (メディックメディア) 「全部見える 脳・神経疾患」 (成美堂出版) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	解剖学・生理学(免疫系, 循環系, 神経系, 筋・運動系など)の基礎知識について復習し, 不得意な領域をなるべく少なくしておく事. 病理学概論・臨床医学総論・臨床評価実習の範囲で扱う専門用語も同様に必要です.

科目の目標	神経系疾患の病態生理を把握し, 症状や検査結果が類似する疾患を鑑別できる視点を養う事を旨とする。
授業概要	神経系の構造・機能の知識に基づき, 各神経系疾患の概念(病理や疫学上の特徴)・症状(自覚症状・他覚所見など)・診断(検査方法・検査結果など)・治療(薬物投与や手術などの種類など)・経過予後(生命予後や後遺症の有無など)を学習する。授業状況を鑑みながら, 進行速度を変化させる。

日程

回 数	授業内容
1	筋疾患: 重症筋無力症, 進行性筋ジストロフィー, 筋強直性筋ジストロフィー
2	運動ニューロン疾患: 筋萎縮性側索硬化症, 多発性硬化症
3	認知症性疾患: 認知症 (アルツハイマー型認知症, レビー小体型認知症, 脳血管型認知症, ピック病)
4	感染性疾患: 髄膜炎(ウイルス性髄膜炎(ポリオなど), 細菌性・結核性・真菌性髄膜炎)
5	基底核変性疾患: パーキンソン病, ハンチントン舞踏病, 脳性小児麻痺, ウィルソン病
6	その他変性疾患: 脊髄小脳変性症, 脊髄空洞症, 進行性核上性麻痺, パーキンソニズム
7	脳・脊髄腫瘍: 脳腫瘍, 神経膠腫, 髄膜腫, 転移性脳腫瘍, 下垂体腺腫, 神経鞘腫, 脊髄腫瘍
8	脳血管疾患①: 脳梗塞(脳血栓/脳塞栓), 一過性脳虚血発作
9	脳血管疾患②: 脳出血, クモ膜下出血
10	復習①: 確認問題と解答・解説

1 1	末梢神経障害：圧迫性・絞扼性ニューロパシー，ベル麻痺，ラムゼーハント症候群
1 2	神経痛：三叉神経痛，肋間神経痛，坐骨神経痛，後頭神経痛
1 3	機能性疾患：緊張型頭痛，片頭痛，群発頭痛
1 4	復習②
1 5	定期試験
1 6	解答と解説

科 目	リハビリテーション医学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	塚本 晃介	教員区分	一般教員

教科書	新版 リハビリテーション医学 (公社)東洋医学学校協会編(文光堂)
参考書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
成績評価	本試験で60点未満の場合は再試験となる。
留意事項	臨床評価実習, 臨床医学各論と合わせた学習を行い, 予習・復習に勤しむこと。

科目の目標	リハビリテーションの概念と各疾患に対する治療方法を理解する。
授業概要	リハビリテーション医学について正しい知識を持ち, 社会の変化や生活の価値観の変化に応じて進歩するリハビリテーションに対応できるように学習する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション, 総論 1章 リハビリテーション医学と医療 1
2	総論 1章 リハビリテーション医学と医療 2
3	総論 3章 診断・評価学 1 (ROM MMT ADL 等)
4	総論 3章 診断・評価学 2 (ブルンストロームステージ 心理評価等)
5	総論 4章 治療 1 (運動療法 物理療法)
6	総論 4章 治療 2 (作業療法 言語聴覚療法 補助具 看護 ソーシャルワーク)
7	各論 1章 整形外科疾患 1 (運動障害 上肢 下肢)
8	各論 1章 整形外科疾患 2 (運動障害 上肢 下肢)
9	各論 1章 整形外科疾患 3 (脊髄損傷 切断 関節リウマチ スポーツ障害)
10	各論 1章 整形外科疾患 4 (脊髄損傷 切断 関節リウマチ スポーツ障害)
11	各論 2章 神経疾患 1 (脳血管障害 パーキンソン病 脊髄小脳変性症 多系統萎縮症)
12	各論 2章 神経疾患 2 (脳血管障害 パーキンソン病 脊髄小脳変性症 多系統萎縮症)
13	各論 3章 内部障害 (虚血性心疾患 呼吸器疾患 糖尿病 腎障害)
14	各論 4章 がん, 5章 高齢者, 6章 小児
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	東洋医学臨床論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	石田 大弥	教員区分	一般教員

教 科 書	「新版 東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」株式会社 南江堂 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参 考 書	プリントを配布
成績評価	定期試験
留意事項	要穴表は必ず覚えて授業に臨んで下さい。 授業進行に応じて、シラバスを一部訂正することがあります。

科目の目標	各愁訴・疾患における東洋医学的な病因病機を理解し、鍼灸処方を組み立てられること。
授業概要	東洋医学的な病因病機・処方を座学形式で学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション//悪心・嘔吐/便秘
2	下痢/歯痛/咳と痰
3	呼吸困難/鼻閉・鼻汁/
4	脱毛/耳鳴り・難聴
5	排尿障害(頻尿・排尿痛)/ED(勃起障害)
6	疲労と倦怠感/発熱
7	冷え/のぼせ/浮腫
8	掻痒感/肌荒れ/発疹
9	顔面麻痺/歩行異常
10	口渇/出血傾向/月経異常
11	性器出血/帯下
12	不妊/骨盤位(逆子)
13	乳汁分泌不全/つわり
14	小児神経症(疳の虫)/夜尿症/認知症
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	現代医学臨床論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	椎野 崇	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学臨床論 (はりきゅう編)」(公社)東洋療法学校協会編 (南江堂)
参考書	「臨床医学各論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ」 矢野 忠 編集 (文光堂)
成績評価	期末試験により評価する。60点未満の場合は再試験とする。
留意事項	積極的に受講し授業内容を復習すること。関連する解剖学、生理学、臨床医学、経絡経穴も合わせて復習すること。教科書・プリントは指示がなくても毎回持参すること。進行状況によりシラバスの内容が変更される場合あり。

科目の目標	レッドフラッグを含む疾患の鑑別ができるようになること、患者に対し病態、治療の効果およびリスク、予後、生活指導などが説明できるようになること、実際に適切に治療できるようになることを目標とする。
授業概要	疾患ごとに教科書に沿って解説し、臨床で実践できるように講義する。

日程

回 数	授業内容
1	疼痛概説、排尿障害、歩行異常
2	血圧異常、睡眠障害
3	食欲不振、肥満
4	便秘、下痢
5	咳嗽と喀痰、鼻閉・鼻汁
6	脱毛症、ED（勃起障害）
7	疲労と倦怠感、気分障害（うつ状態）
8	冷え、のぼせ
9	浮腫、掻痒感（痒み）、肌荒れ、発疹
10	月経異常、不妊症
11	つわり、骨盤位
12	小児特有の症候
13	老年特有の症候
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床鍼灸学Ⅱ（A・Bクラス）	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	北園 実鈴・割田 萌	教員区分	一般教員

割田 萌（美容鍼総論）

教科書	特になし
参考書	「医学的知識に基づく美容鍼実践ガイドブック」日本美容皮膚研究会（日本印刷株式会社）
成績評価	定期試験にて評価する。 50点満点とし、30点未満の場合、再試験とする。 科目の評価は、北園先生の期末試験の得点との合算とする。
留意事項	毎時限、内容が完結するため欠席をしないこと。

科目の目標	美容鍼を行う上で必要な知識を身につける。
授業概要	美容鍼を行う上で必要な局所解剖・リスク管理・美容皮膚科の基礎知識を学ぶ。

北園 実鈴（婦人科総論）

教科書	特になし
参考書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版社) 「生理学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版社) 「臨床医学各論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版社) 「臨床不妊症学 第3版」 柴原浩章 編著 (中外医学社) 「高齢不妊診療ハンドブック」 森本義晴 著 (医学書院) 「月経らくらく講座」 松本清一 監修 (文光堂) 「臨床婦人科産科」 (医学書院)
成績評価	定期試験にて評価する。50点満点とし、30点未満の場合、再試験とする。 科目の評価は、割田先生の期末試験の得点との合算とする。
留意事項	各部位の構造と機能の予習を行なって授業に望むこと。

科目の目標	鍼灸臨床で遭遇しやすい整形外科疾患や内科疾患の病態と鍼灸治療について学ぶ。
授業概要	生殖器などの局所解剖を理解する。 疾患の病態生理を学ぶことによって鍼灸治療の方法を学ぶ。

日程 Aクラス

回 数	授業内容
1	婦人科疾患の病態と治療方針① (北園)
2	美容鍼の基礎知識① (割田)
3	婦人科疾患の病態と治療方針② (北園)
4	美容鍼の基礎知識② (割田)
5	婦人科疾患の病態と治療方針③ (北園)
6	美容鍼の基礎知識③ (割田)
7	婦人科疾患の病態と鍼灸治療④ (北園)
8	美容鍼の基礎知識④ (割田)
9	婦人科疾患の病態と治療方針⑤ (北園)
10	美容鍼の基礎知識⑤ (割田)
11	婦人科疾患の病態と治療方針⑥ (北園)
12	美容鍼の基礎知識⑥ (割田)
13	婦人科疾患の病態と治療方針⑦ (北園)
14	美容鍼の基礎知識⑦ (割田)
15	定期試験 (北園・割田)
16	まとめ (北園・割田)

日程 Bクラス

回 数	授業内容
1	婦人科疾患の病態と治療方針① (北園)
2	美容鍼の基礎知識① (割田)
3	婦人科疾患の病態と治療方針② (北園)
4	美容鍼の基礎知識② (割田)
5	婦人科疾患の病態と治療方針③ (北園)
6	美容鍼の基礎知識③ (割田)
7	婦人科疾患の病態と鍼灸治療④ (北園)
8	美容鍼の基礎知識④ (割田)
9	婦人科疾患の病態と治療方針⑤ (北園)
10	美容鍼の基礎知識⑤ (割田)
11	婦人科疾患の病態と治療方針⑥ (北園)
12	美容鍼の基礎知識⑥ (割田)
13	婦人科疾患の病態と治療方針⑦ (北園)
14	美容鍼の基礎知識⑦ (割田)
15	定期試験 (北園・割田)
16	まとめ (北園・割田)

科 目	社会鍼灸学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	後期
教 員 名	原 島 基	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	適宜紹介する。
成績評価	定期試験、授業態度（態度が著しく悪く、教員の注意を複数回受けた場合—4点）を総合的に評価する。
留意事項	鍼灸師と社会との関係において問題意識を持つこと。

科目の目標	鍼灸師の役割を把握し、社会の中でどのように活動し、情報を発信するかを学ぶ。
授業概要	現代を生きる鍼灸師として何が必要なのかを把握する。それを研究・発表する場で、適切に相手へ発信することを学んでいく。

日程

回 数	授業内容
1	・オリエンテーション ・本授業では、外部講師を招き社会の中での鍼灸師の役割や、取り巻く環境について学ぶ。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
1 0	
1 1	
1 2	
1 3	
1 4	
1 5	定期試験
1 6	定期試験の解答と解説 総説

科 目	臨床評価実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教 員 名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「適切な判断を導くための整形外科徒手検査法」 松村将司 著 (Medical View 社) 「イラストで楽しく学ぶ徒手検査インパクト」 原田 晃 著 (医道の日本社)
成績評価	実技試験に欠席点(欠席－6点, 遅刻・早退－2点), 授業態度(不適切な身だしなみ－4点)を含めた評価とする。
留意事項	検査法は相手の身体に負荷や痛みをあたえるということに留意し, 真剣に取り組むこと。 解剖学・運動学・整形外科疾患の知識が基礎となるため, 授業前に復習をしておくこと。 部位に応じて, ハーフパンツなど動きやすい服装で臨むこと。

科目の目標	徒手検査法と推定される疾患の関係を理解し, 臨床の場において患者の病態把握に結び付けられる技術を身につける。 身体部位各々の触察方法を考慮し, 適切に徒手検査が行えるようにする。
授業概要	徒手検査法を正しく行える技術と知識を習得する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション
2	上肢の診察・徒手検査・評価方法①
3	上肢の診察・徒手検査・評価方法②
4	上肢の診察・徒手検査・評価方法③
5	膝関節の診察・徒手検査・評価方法①
6	膝関節の診察・徒手検査・評価方法②
7	腰部の診察・徒手検査・評価方法①
8	腰部の診察・徒手検査・評価方法②
9	股関節の診察・徒手検査・評価方法①
10	股関節の診察・徒手検査・評価方法② 頸部の診察・徒手検査・評価方法
11	足関節の診察・徒手検査・評価方法
12	総復習
13	実技試験
14	実技試験
15	試験のフィードバック
16	再試験・検査法のまとめ

科 目	触診触察実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	後期
教 員 名	浅野 貴之	教員区分	一般教員

教 科 書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論 くはりきゅう編」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参 考 書	「プロメテウス解剖学アトラス解剖学 総論・運動器系」(医学書院)
成績評価	実技試験, 出席点(1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点), 授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。
留意事項	・体調管理(睡眠, 食事など)に努め, 実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・1回完結の授業の為, できるだけ休まないこと。 ・授業中にできるだけ多くの人の体を借りて, 経験を積むことでどんな体格でも刺激できるようにすること。 ・臨床実習を意識し, 言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・刺激部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・刺激部位の構造(骨, 筋, 靱帯, 神経, 血管)を必ず予習してくること。

科目の目標	「現代医学臨床論Ⅰ・Ⅱ」で学習した各部位における症候に対し, 障害を起こしやすい組織(内臓や筋・神経・関節など)を中心に触察および診察, 患者を想定した, 触診(触り方)を習得する。さらに, 男女や筋の発達度合い, 脂肪の量による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて, 各症候で障害を起こしやすい組織の診察, 触察・触診見本を提示し, 感触を経験した後に, 各ペアで触察・触診をおこなう。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・前期内容の復習
2	顔面神経麻痺に関わる組織の触診および触擦(現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照)
3	鼻閉・鼻汁に関わる組織の触診および触擦(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
4	咳嗽・喘息に関わる組織の触診および触擦(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
5	消化器に関わる組織の触診および触擦①(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
6	消化器に関わる組織の触診および触擦②(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
7	婦人科に関わる組織の触診および触擦(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
8	泌尿器に関わる組織の触診および触擦(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
9	血圧異常に関わる組織の触診および触察(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
10	不眠・疲労・倦怠感に関わる組織の触診および触擦(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)

1 1	胸痛に関わる組織への触察および触診（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
1 2	眼精疲労に関わる組織への触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
1 3	スポーツ医学に関わる組織への触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
1 4	定期試験
1 5	フィードバック
1 6	総復習

科 目	灸応用実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	後期
教 員 名	割田 萌	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技＜基礎編＞」（公社）東洋療法学校協会編（医道の日本社）
参考書	特になし
成績評価	実技試験 7 割，小テスト 3 割に出席状況と身だしなみを総合して評価する。 実技試験ないしは総合評価が 6 割に満たないものは再試験とする。
留意事項	医療従事者としてふさわしい服装で参加すること（ふさわしくない身だしなみ－4 点）。 遅刻・欠席をしないこと（欠席－6 点，遅刻－2 点）。 感受性の差異に留意し，参加にあたっては体調管理に努めること。 火気の取り扱いに注意し，適切に器具を扱うこと。指示以外のことは行わないこと。 小テストは 5・7・9・11 回で，灸を据える上で必要な経穴の知識を確認するために実施する。試験の範囲は当日の授業開始時に決定する。

科目の目標	灸の基礎実習で学習した事を基に，基礎技術力のさらなる向上を目指す。 臨床において使用頻度の高い身体部位に対する施術方法を交え，担当教員により各部位のデモンストレーションを行い指導する。
授業概要	様々な灸法を学び，治療に使用することのできる技術を習得する。

実務経験	付属施術所で施術
実務経験と授業の関連	臨床で培った技術を授業に取り入れる。

日程

回 数	授業内容
1	ガイダンス・紙上施灸
2	対人施灸（透熱灸 復習）
3	対人施灸（紫雲膏灸）
4	対人施灸（温筒灸）
5	対人施灸（知熱灸）小テスト①
6	対人施灸（隔物灸）
7	対人施灸（棒灸・箱灸）小テスト②
8	臨床推論・対人施灸（腰部への灸①）
9	対人施灸（腰部への灸②）小テスト③
10	対人施灸（腹部への灸）

1 1	対人施灸（肩背部への灸）小テスト④
1 2	対人施灸（四肢への灸）
1 3	定期試験
1 4	定期試験
1 5	フィードバック・総復習
1 6	総復習

科 目	鍼灸応用実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	後期
教 員 名	浅野 貴之	教員区分	実務教員

教 科 書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論 くはりきゅう編」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参 考 書	「プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系」(医学書院)
成績評価	実技試験、出席点(1回欠席－6点・1回遅刻・早退－2点)、授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回－4点)を総合的に評価する。
留意事項	・体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・1回完結の授業の為、できるだけ休まないこと。 ・授業中にできるだけ多くの人の体を借りて、経験を積むことでどんな体格でも刺激できるようにすること。 ・臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・刺激部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・刺激部位の構造(骨、筋、靱帯、神経、血管)を必ず予習してくること。

科目の目標	「現代医学臨床論Ⅰ・Ⅱ」で学習した各部位における症候に対し、障害を起こしやすい組織(筋・神経・関節など)や内臓疾患による反応点を中心に刺激方法を習得する。 さらに、男女や筋の発達度合い、脂肪の量による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて、各症候で障害を起こしやすい組織や内臓疾患による反応点の刺激見本を提示し、鍼尖の感触を経験した後に、各ペアで刺激練習をおこなう。

実務経験	鍼灸院にて勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った鍼灸の技術を授業に取り入れる。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・前期内容の復習
2	顔面神経麻痺に関わる組織の刺激(現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照)
3	鼻閉・鼻汁に関わる組織の刺激(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
4	咳嗽・喘息に関わる組織の刺激(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
5	消化器疾患に関わる組織の刺激①(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
6	消化器疾患に関わる組織の刺激②(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
7	婦人科疾患に関わる組織の刺激(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
8	泌尿器疾患に関わる組織の刺激(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)

9	血圧異常に関わる組織への刺激（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
10	自律神経調整に関わる組織への刺激（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
11	胸痛に関わる組織への刺激（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
12	眼精疲労に関わる組織への刺激（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
13	スポーツ医学に関わる組織へ刺激（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
14	定期試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	臨床実習 (2コマ1日程)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	90
		履修年次	2年次
		実施学期	前・後期
教員名	内藤 玄吾(Aクラス) 浅野 貴之(Bクラス)	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	評価表に基づく。
留意事項	臨床の場にふさわしい服装，態度で臨むこと。

科目の目標	実際の臨床現場をしっかりと把握，理解し，適切な行動，患者応対ができる。
授業概要	鍼灸臨床に必要な患者対応の知識，技術を学習する。 臨床実習上で必要な各種の動作を学ぶ。

日程【後期】

回数	授業内容
1・2	・オリエンテーション ・衛生管理，施術所内の環境把握，後片付け（原状復帰），言葉遣い ・接遇，カルテ内容の把握，ワゴン準備，施術ブース内の環境把握 ・鍼出し，リスク管理，患者誘導，タオルワーク，血圧測定， ・抜鍼動作，廃棄物の処理，温灸の使い方，グループによるロールプレイ
3・4	
5・6	
7・8	
9・10	
11・12	
13・14	
15・16	
17・18	
19・20	
21・22	
23・24	
25・26	
27・28	
29・30	
31・32	

科 目	解剖学Ⅶ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	山口 智也	教員区分	一般教員

教科書	配布プリント
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。

科目の目標	総合的におこない基礎力と応用力を固め、考える力を養う。
授業概要	解剖学を中心に総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	解剖学総復習 1
2	解剖学総復習 2
3	解剖学総復習 3
4	解剖学総復習 4
5	解剖学総復習 5
6	解剖学総復習 6
7	解剖学総復習 7
8	解剖学総復習 8
9	解剖学総復習 9
10	解剖学総復習 10
11	解剖学総復習 11
12	解剖学総復習 12
13	解剖学総復習 13
14	解剖学総復習 14
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	生理学Ⅴ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	本多 淳	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	適宜紹介する
成績評価	定期試験
留意事項	生理学の基礎知識の確認と苦手なポイントを再確認する

科目の目標	生理学やその他の科目もリンクして学習を効率良く行う
授業概要	生理学Ⅰ～Ⅳの内容を総復習する

日程

回 数	授業内容
1	生理学の基礎の復習
2	血液循環の復習①
3	血液循環の復習②
4	血液循環の復習③
5	生体防御機構の復習
6	呼吸の復習
7	消化と吸収の復習
8	代謝の復習
9	体温の復習
10	排泄の復習①
11	排泄の復習②
12	内分泌の復習①
13	内分泌の復習②
14	生殖と成長の復習
15	定期試験
16	解答と解説

科 目	衛生学・公衆衛生学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	小笠原 京哉	教員区分	一般教員

教科書	「衛生学・公衆衛生学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「公衆衛生がみえる 2024-2025」安藤 雄一 ら監修(メディックメディア)
成績評価	定期試験
留意事項	法律や統計は毎年、改正・更新されるので、過去資料の使用には十分気をつけること。

科目の目標	正確な知識を得ることにより幅広く公衆衛生を理解し、医療従事者としての基本的な医学を学ぶことで適切な保健医療活動を実践できる能力を養う。
授業概要	主にスライドと配布資料を用いて行う。

日程

回 数	授業内容
1	衛生学・公衆衛生学の意義
2	健康
3	ライフスタイルと健康
4	環境と健康 1
5	環境と健康 2
6	産業保健
7	精神保健
8	母子保健
9	成人・高齢者保健
10	感染症とその対策
11	消毒法
12	疫学
13	保健統計
14	総復習
15	定期試験
16	解説

科 目	臨床医学各論Ⅴ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 年次
		実施学期	前期
教 員 名	山 田 智	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)		
参 考 書	「なるほどなっとく内科学」	浅野嘉延 編集	(南山堂)
	「病気が見える シリーズ」		(メディックメディア)
	「新版東洋医学臨床論はりきゅう編」	(公社)東洋療法学校協会編	(南山堂)
	「標準生理学 第8版」	小澤滯司・福田康一郎 監修	(医学書院)
	「解剖学講義 第3版」	伊藤隆 原著	(南山堂)
成績評価	定期試験により評価します。		
留意事項	解剖学, 生理学, 病理学, 臨床医学総論を復習してください。		

科目の目標	解剖・生理を踏まえながら, 代表的な疾患の病態生理の理解と把握, 検査方法を学ぶ。
授業概要	配布資料と口述, 画像や模式図などを用いて解説していきます。成績に反映しない小テストを各回実施して理解の進捗度を確認します。

日程

回 数	授業内容
1	腎・泌尿器疾患① 原発性糸球体腎炎, 小テスト配布
2	腎・泌尿器疾患② 腎不全, 感染症, 小テスト配布と前回小テスト解説
3	腎・泌尿器疾患③ 腫瘍性疾患, 結石症, 前立腺疾患, 小テスト配布と前回小テスト解説
4	リウマチ性疾患・膠原病疾患①リウマチ性疾患, 膠原病, 小テスト配布と前回小テスト解説
5	リウマチ性疾患・膠原病疾患② 膠原病, 小テスト配布と前回小テスト解説
6	リウマチ性疾患・膠原病疾患②続き その他領域① 小児疾患, 小テスト配布と前回小テスト解説
7	その他領域② 一般外科, 麻酔科, 小テスト配布と前回小テスト解説
8	その他領域③ 婦人科疾患, 小テスト配布と前回小テスト解説
9	その他領域④ 皮膚科疾患, 小テスト配布と前回小テスト解説
10	その他領域⑤ 眼科疾患, 小テスト配布と前回小テスト解説
11	その他領域⑥ 耳鼻科疾患, 小テスト配布と前回小テスト解説
12	その他領域⑦ 精神科疾患, 小テスト配布と前回小テスト解説
13	その他領域⑧ 心療内科, 小テスト配布と前回小テスト解説
14	総まとめ, 小前回小テスト解説
15	定期試験
16	解答と解説, 授業総括

科 目	臨床医学総合論	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 年次
		実施学期	前期
教 員 名	金子 尚史	教員区分	一般教員

教 科 書	「臨床医学総合論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 配布プリント
参 考 書	「臨床医学各論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。

科目の目標	総合的に考える力を養い、応用力をつける。
授業概要	臨床医学総合論を中心に総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション, 臨床医学総合論①
2	臨床医学総合論②
3	臨床医学総合論③
4	臨床医学総合論④
5	臨床医学総合論⑤
6	臨床医学総合論⑥
7	臨床医学総合論⑦
8	臨床医学総合論⑧
9	臨床医学総合論⑨
10	臨床医学総合論⑩
11	臨床医学総合論⑪
12	臨床医学総合論⑫
13	臨床医学総合論⑬
14	臨床医学総合論⑭
15	定期試験
16	解答と解説, 授業総括

科 目	経絡経穴概論Ⅳ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 年次
		実施学期	前期
教 員 名	北園 実鈴	教員区分	一般教員

教 科 書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 適宜プリントを配布
参 考 書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論くはりきゅう編」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	定期試験 8 割, 暗唱 2 割 (指定された期日までに行うこと) による総合評価 定期試験もしくは総合評価が 6 割未満の者は再試験とする。
留意事項	十四経について所属する経穴名が暗唱できること。 欠席をしないこと。 予習・復習を必ず行い, 記憶すること。 鍼灸師として必要な経穴の知識を確認しておくこと。

科目の目標	経絡経穴概論の基礎力を固め, 考える力を養う。
授業概要	経絡経穴概論の内容を総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	十四経書き取り①
2	十四経書き取り②
3	流注・骨度法
4	取穴部位・要穴①
5	取穴部位・要穴②
6	取穴部位・要穴③
7	取穴部位・要穴④
8	取穴部位・要穴⑤
9	取穴部位・要穴⑥
1 0	取穴部位・要穴⑦
1 1	取穴部位・要穴⑧
1 2	奇経・奇穴など
1 3	頸部・顔面・頭部：取穴部位
1 4	取穴部位のまとめ
1 5	定期試験
1 6	解答と解説, 授業総括

科 目	東洋医学概論Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 年次
		実施学期	前期
教 員 名	黒 岩 太	教員区分	一般教員

教 科 書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参 考 書	「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	定期試験
留意事項	配布する資料を必ず持参すること。必ず復習を行うこと。

科目の目標	東洋医学概の知識と応用力の習得を目標とする。
授業概要	東洋医学概論Ⅰ，Ⅱの復習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	ガイダンス 陰陽・五行論
2	精・気・血・津液と神の生理・病理
3	八綱弁証
4	肝・胆の生理・病理
5	心・小腸の生理・病理
6	脾・胃の生理・病理
7	肺・大腸の生理・病理
8	腎・膀胱の生理・病理
9	経脈病証
1 0	東洋医学的診察法と証の立て方 (難経六十九難等)
1 1	東洋医学的診察法と証の立て方 (鍼灸の補瀉・古代刺法等)
1 2	東洋医学的診察法と証の立て方 (その他)
1 3	総復習①
1 4	総復習②
1 5	定期試験
1 6	解答・解説

科 目	臨床鍼灸学Ⅲ（Aクラス）	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	浅野 貴之 他	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	各授業内で適宜紹介する。
成績評価	出席点と実技態度による総合評価。
留意事項	臨床で活用できる重要な技術を学ぶので、欠席をしないようにすること。 出席（1回欠席－6点・1回遅刻－2点）、相応しくない身だしなみ（－4点）。

科目の目標	様々な鍼灸治療の方法に触れ、鍼灸師としての知見、技術を深める。
授業概要	それぞれの業界で活躍する先生方をゲストにお呼びし、授業を行う。

日程

回 数	授業内容
1	足関節の基本テーピング
2	足関節の応用テーピング
3	膝関節の基本から応用テーピング
4	手関節の基本から応用テーピング
5	肘関節の基本から応用テーピング
6	各関節のファンクショナルテーピング
7	キネシオテーピングの基本
8	キネシオテーピングの応用
9	積聚治療① 概要、実技供覧
10	積聚治療② 理論、基本刺鍼
11	積聚治療③ 理論2、指標、腹部接触鍼
12	積聚治療④ 脈診、脈調整
13	積聚治療⑤ 腹部区分、腹診
14	積聚治療⑥ 背部区分、背部取穴
15	積聚治療⑦ 背部治療
16	積聚治療⑧ 背部治療、肩部治療、総復習

科 目	臨床鍼灸学Ⅲ (B クラス)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	下山 隆朗 他	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	各授業内で適宜紹介する。
成績評価	出席点と実技態度による総合評価。
留意事項	臨床で活用できる重要な技術を学ぶので、欠席をしないようにすること。 出席（1回欠席－6点・1回遅刻－2点）、相応しくない身だしなみ（－4点）。

科目の目標	様々な鍼灸治療の方法に触れ、鍼灸師としての知見、技術を深める。
授業概要	それぞれの業界で活躍する先生方をゲストにお呼びし、授業を行う。

日程

回 数	授業内容
1	積聚治療① 概要、実技供覧
2	積聚治療② 理論、基本刺鍼
3	積聚治療③ 理論2、指標、腹部接触鍼
4	積聚治療④ 脈診、脈調整
5	積聚治療⑤ 腹部区分、腹診
6	積聚治療⑥ 背部区分、背部取穴
7	積聚治療⑦ 背部治療
8	積聚治療⑧ 背部治療、肩部治療、総復習
9	足関節の基本テーピング
10	足関節の応用テーピング
11	膝関節の基本から応用テーピング
12	手関節の基本から応用テーピング
13	肘関節の基本から応用テーピング
14	各関節のファンクショナルテーピング
15	キネシオテーピングの基本
16	キネシオテーピングの応用

科 目	薬学概論	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	根本 香代・陶 恵寧 他	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	「女性診療で使えるヌーベル漢方処方ノート」武田卓 著（メディカ出版）
成績評価	確認試験を5割，定期試験を5割として総合評価する。 それぞれの試験が6割に満たない場合は再試験の対象とする。
留意事項	基礎となる生理学や東洋医学を復習しておくこと。

科目の目標	生理学・東洋医学臨床論等の知識を活かし，鎮痛薬など一般的に服用されている薬を中心とした薬理や漢方薬の基礎を理解して，患者とのコミュニケーションの幅を広げることを目的とする。患者が処方されている薬の概要を把握し，その効果をより高める治療ができる臨床家を育成する。
授業概要	現代的な薬学では症状別に，漢薬では証や生薬別に知識を深めていく。

日程

回 数	授業内容
1	薬理学の基礎知識
2	解熱・鎮痛・抗炎症薬
3	風邪薬
4	抗アレルギー薬
5	循環器系に作用する薬物
6	消化器系に作用する薬物
7	神経系に作用する薬物
8	確認試験
9	漢方薬総論
10	風邪・インフルエンザに対する漢方薬
11	肩こり・首こり・腰痛に対する漢方薬
12	冷えに対する漢方薬
13	不眠・不安・リラックスに対する漢方薬
14	疲労・体力低下に対する漢方薬
15	定期試験
16	フィードバック，加齢による不調・更年期・妊活に対する漢方薬

科 目	治効理論	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	3 2
		履修年次	3 年次
		実施学期	前期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教 科 書	「生理学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「解剖生理 第1版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「はりきゅう理論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「はりきゅう理論 3版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版リハビリテーション医学 第1版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「はり師、きゅう師、あんま・指圧・マッサージ師のための痛み学習テキスト」 (公社)東洋療法研修試験財団 ※ 他、適宜学術論文を参照
参 考 書	「はりきゅう実技＜基礎編＞」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「病理学概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験および小テストで合算評価する。小テストは授業時間内～提出期限を設け、適宜実施する。 評価方法) 小テストは13回実施予定で総合評価の13%の配点(及第点に達したものを1%)とする。 期末試験は100点満点で実施し、87%の配点とする。 評価基準) 期末試験のみで60点未満、小テストとの合算評価で60%未満の場合、再試験対象とする。
留意事項	鍼灸領域の学術論文を基とした学習範囲なので、基礎医学(生理学領域のうち、とくに神経系)の再確認を常に繰り返しておく事。

科目の目標	鍼灸は科学的根拠に乏しい治療と考える旧来の医学知識は近年刷新され、科学的視点による実験から得られた知見による、治効理論が構築されている。ごく近年では、体内での情報伝達や化学反応が技術的に可視化された事により、鍼灸領域においても新たな観点が加わりつつある。 本科目は、鍼灸治療に関わる基礎知識・作用機序を学習し、臨床において根拠ある施術ができるようになることを目標とする。
授業概要	鍼灸が物理的に影響を及ぼす皮膚組織・筋組織・結合組織の現代医学的な理解を進める。 組織損傷時にみられる変化を学習し、鍼灸施術で生じる組織変化への理解を進める。 鍼灸刺激によって生じる神経系・内分泌系・免疫系の反応を学習する。 基本となる教科書範囲は、主に「はりきゅう理論2版」第9～11章であるが、「はりきゅう理論3版」第8～10章の内容も配布テキストで対応していく。

日程

回 数	授業内容
1	神経系の生理解剖 1
2	神経系の生理解剖 2, 神経系の生理解剖 3
3	内分泌系の生理解剖, 免疫系の生理解剖
4	第 9 章: 鍼灸治効の基礎 1…痛みの定義と分類, 温度覚の性質と鍼灸との関連
5	第 9 章: 鍼灸治効の基礎 2…触圧覚の性質と鍼灸との関連
6	第 9 章: 鍼灸治効の基礎 3…運動器の性質と鍼灸との関連
7	第 9 章: 鍼灸治効の基礎 4…鍼鎮痛 1
8	第 9 章: 鍼灸治効の基礎 5…鍼鎮痛 2
9	第 9 章: 鍼灸治効の基礎 6…鍼灸施術の刺激と反応
10	第 10 章: 鍼灸療法の一般治効理論 1…鍼灸施術による自律神経反応
11	第 10 章: 鍼灸療法の一般治効理論 2…鍼灸施術による生体防御機構の反応
12	第 10 章: 鍼灸療法の一般治効理論 3…鍼灸施術と神経・内分泌・免疫系の相互作用
13	第 10 章: 鍼灸療法の一般治効理論 4…鍼灸治効機序に関与する分子生理学, 薬理学総括
14	第 11 章: 関連学説
15	定期試験
16	解答と解説, 授業総括

科 目	臨床応用実習Ⅰ (前期 Bクラス)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	金子 尚史	教員区分	一般教員

教科書	特になし。テーマに沿ったテキストにて配布。
参考書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「ネッター 解剖学アトラス」 F.H. Netter 著 (南江堂) 「クリニカルマッサージ」 James H. Clay 著 (医道の日本社) 「プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」 坂井建雄 監訳 (医学書院)
成績評価	出席(1回欠席-6点・1回遅刻-2点)、授業態度、実技試験を総合的に評価する。
留意事項	体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 1回完結の授業であるため、できるだけ欠席しないこと。 実習中はリスク管理に努め、無理な刺激は絶対にしないこと。 常に臨床を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 刺激部位の露出しやすい服装を心がけること。 刺激部位の構造(骨、筋、靭帯、神経、血管)を必ず予習してくること。

科目の目標	触診、刺激技術の更なる向上と、様々な疾患に対して鍼灸治療を行うための、基本的な刺激技術や鍼通電技術を獲得する。
授業概要	2年間で学んだ基礎医学(解剖学、生理学)と実技実習(鍼基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床評価実習Ⅰ・Ⅱ、鍼灸応用実習Ⅰ・Ⅱ)の知識と技術を基にして、鍼灸院で多く受診される疾患に対して施術する場合の、基礎となるパルス治療、特に筋パルスの技術を獲得する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション(鍼について、灸について)、刺激(基礎)、リスクマネジメント…安全に刺激するには
2	身体バランスの見方、上肢、上肢帯の経穴刺激法①肩甲骨周囲
3	身体バランスの見方、上肢、上肢帯の経穴刺激法②前胸部、上肢
4	背部筋を使って反応部位の探し方と刺激量の調節の仕方
5	身体バランスの見方、体幹部(背部)刺激法①
6	身体バランスの見方、体幹部②腹部 兪募配穴との組み合わせ

7	下肢帯①(骨盤, 股関節)刺鍼法
8	下肢帯②(骨盤, 股関節, 下腿)刺鍼法
9	局所治療①頸部(斜角筋)～肩関節刺鍼法
1 0	局所治療②膝刺鍼法
1 1	全身調整～後療法①
1 2	全身調整～後療法②
1 3	症状に応じた施術, 組み立て
1 4	実技試験
1 5	フィードバック
1 6	総復習

科 目	臨床応用実習Ⅱ (前期 Aクラス)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	3 2
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	橋本 巖	教員区分	一般教員

教科書	資料を配布する。
参考書	「日本鍼灸医学 経絡治療・基礎編」 経絡治療学会 「新版 東洋医学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	出席(1回欠席－6点・1回遅刻－2点), 相応しくない身だしなみ(－4点), 授業態度, 実技試験を総合的に評価する。
留意事項	体調管理(睡眠, 食事など)に努め, 実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 1回完結の授業であるため, できるだけ欠席しないこと。 実習中はリスク管理に努め, 無理な刺激は絶対にしないこと。 常に臨床を意識し, 言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 刺激部位の露出しやすい服装を心がけること。 刺激部位の構造(骨, 筋, 靱帯, 神経, 血管)を必ず予習してくること。

科目の目標	触診, 刺激技術の更なる向上をはかる。特に, 経絡病証を考慮した治療を行うために必須な経絡流注の把握や基本的な切診技術, 要穴の取穴と適切な刺激法を獲得する。
授業概要	2年間で学んだ基礎医学(解剖学, 生理学)と実技実習(鍼基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ, 臨床評価実習Ⅰ・Ⅱ, 鍼応用実習Ⅰ・Ⅱ)の知識と技術を基にして, 鍼灸院で多く受診される疾患に対して施術する場合の経絡治療を修得する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション 経絡治療について, 診察法概論(切診), 刺激の基礎(姿勢)
2	「肺経」流注と経絡病証・脈診(右寸口)と切経・要穴と背部俞穴刺激, 刺激の基礎(押手)
3	「肝虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺激
4	「腎虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺激
5	「脾虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺激
6	「肺虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺激
7	「脾経」流注と経絡病証・脈診(右関上)と切経・要穴と背部俞穴刺激, 刺激の基礎(刺手)
8	「心経」流注と経絡病証・脈診(左寸口)と切経・要穴と背部俞穴刺激, 刺激の基礎(弾入)
9	「腎経」流注と経絡病証・脈診(左尺中)と切経・要穴と背部俞穴刺激, 刺激の応用(旋撚)
10	「心包経」流注と経絡病証・脈診(右尺中)と切経・要穴と背部俞穴刺激, 刺激の応用(雀啄)
11	「肝経」流注と経絡病証・脈診(左関上)と切経・要穴と背部俞穴刺激, 刺激の応用(催気)
12	体質別治療
13	体質別治療

1 4	実技試験
1 5	フィードバック
1 6	総復習

科 目	臨床実習（Aクラス）	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	90
		履修年次	3年次
		実施学期	前・後期
教 員 名	浅野 貴之 他	教員区分	実務教員

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし
成績評価	評価表に基づく。1～36回目までを前期、37～48回目を後期の評価対象とする。
留意事項	臨床の場にふさわしい服装、態度で臨むこと

科目の目標	実際の臨床現場をしっかりと把握、理解し、適切な行動、患者応対ができる
授業概要	鍼灸臨床に必要な患者対応の知識、技術を学習する 外部の病院や鍼灸院で実習を行い、知見を深める

実務経験	新宿医療専門学校附属左門町鍼灸院にて勤務
実務経験と授業の関連	臨床現場で経験した知識、技術を授業に取り入れる

日程【前期】

回 数	授業内容
1・2	・オリエンテーション ・衛生管理、施術所内の環境把握、後片付け（原状復帰）、言葉遣い ・接遇、カルテ内容の把握、ワゴン準備、施術ブース内の環境把握 ・鍼出し、リスク管理、患者誘導、タオルワーク、血圧測定、 ・抜鍼動作、廃棄物の処理、温灸の使い方、グループによるロールプレイ
3・4	
5・6	
7・8	
9・10	
11・12	
13・14	
15・16	
17・18	
19・20	
21・22	

23・24	・オリエンテーション ・衛生管理，施術所内の環境把握，後片付け（原状復帰），言葉遣い 接遇，カルテ内容の把握，ワゴン準備，施術ブース内の環境把握 滅出し，リスク管理，患者誘導，タオルワーク，血圧測定， 抜鍼動作，廃棄物の処理，温灸の使い方，グループによるロールプレイ
25・26	
27・28	
29・30	
31・32	
33・34	
35・36	

科 目	臨床実習（B クラス）	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	90
		履修年次	3年次
		実施学期	前・後期
教 員 名	内藤 玄吾 他	教員区分	実務教員

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし
成績評価	評価表に基づく。1～36回目までを前期，37～48回目を後期の評価対象とする。
留意事項	臨床の場にふさわしい服装，態度で臨むこと

科目の目標	実際の臨床現場をしっかりと把握，理解し，適切な行動，患者応対ができる
授業概要	鍼灸臨床に必要な患者対応の知識，技術を学習する 外部の病院や鍼灸院で実習を行い，知見を深める

実務経験	新宿医療専門学校附属左門町鍼灸院にて勤務
実務経験と授業の関連	臨床現場で経験した知識，技術を授業に取り入れる

日程【前期】

回 数	授業内容
1・2	・オリエンテーション ・衛生管理，施術所内の環境把握，後片付け（原状復帰），言葉遣い ・接遇，カルテ内容の把握，ワゴン準備，施術ブース内の環境把握 ・鍼出し，リスク管理，患者誘導，タオルワーク，血圧測定， ・抜鍼動作，廃棄物の処理，温灸の使い方，グループによるロールプレイ
3・4	
5・6	
7・8	
9・10	
11・12	
13・14	
15・16	
17・18	
19・20	
21・22	

23・24	・オリエンテーション ・衛生管理，施術所内の環境把握，後片付け（原状復帰），言葉遣い 接遇，カルテ内容の把握，ワゴン準備，施術ブース内の環境把握 鍼出し，リスク管理，患者誘導，タオルワーク，血圧測定， 抜鍼動作，廃棄物の処理，温灸の使い方，グループによるロールプレイ
25・26	
27・28	
29・30	
31・32	
33・34	
35・36	

科 目	総合鍼灸実習（Aクラス）	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	（美 容 鍼）北園 実鈴，[岡本 真理] （スポーツ鍼）島田 正寿	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし
参 考 書	適宜授業内で紹介する。
成績評価	美容鍼の評価，スポーツ鍼の評価をそれぞれ50点満点としてその合算（100点満点）を総合評価点とする。
留意事項	応用実技なので，基礎鍼灸技術を反復練習し授業に臨むこと。

科目の目標	疾患の治療だけでなく，様々なニーズに対応する鍼灸施術の習得を目的とする。美容鍼やスポーツ外傷の予防・ケアなど，時代背景に見合った幅広い臨床家を育成する。
授業概要	美容を目的としたフェイスクアや，各競技で障害を起こしやすい部位や，臨床で求められる技術を練習しながら理論とともに取得する。

日程

回 数	授業内容
1	美容鍼のガイダンス 皮膚の構造（北園）
2	表情筋ならびに咀嚼筋の刺鍼（北園）
3	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅰ（北園）
4	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅱ（北園）
5	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅲ（北園）
6	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅳ（北園）
7	立体造顔美容に基づいた実技試験（北園）
8	総括と総評 上級のデモンストレーション（北園）

9	スポーツにおける上半身の障害と治療1（島田）
10	スポーツにおける上半身の障害と治療2（島田）
11	スポーツにおける上半身の障害と治療3（島田）
12	スポーツにおける下半身の障害と治療1（島田）
13	スポーツにおける下半身の障害と治療2（島田）
14	スポーツにおける下半身の障害と治療3（島田）
15	実技試験（島田）
16	成績評価，フィードバック（島田）

科 目	総合鍼灸実習（Bクラス）	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教 員 名	(スポーツ鍼) 島田 正寿 (美 容 鍼) 北園 実鈴, [岡本 真理]	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	適宜授業内で紹介する。
成績評価	美容鍼の評価, スポーツ鍼の評価をそれぞれ50点満点としてその合算(100点満点)を総合評価点とする。
留意事項	応用実技なので, 基礎鍼灸技術を反復練習し授業に臨むこと。

科目の目標	疾患の治療だけでなく, 様々なニーズに対応する鍼灸施術の習得を目的とする。美容鍼やスポーツ外傷の予防・ケアなど, 時代背景に見合った幅広い臨床家を育成する。
授業概要	美容を目的としたフェイスクアや, 各競技で障害を起こしやすい部位や, 臨床で求められる技術を練習しながら理論とともに取得する。

日程

回 数	授業内容
1	スポーツにおける上半身の障害と治療1 (島田)
2	スポーツにおける上半身の障害と治療2 (島田)
3	スポーツにおける上半身の障害と治療3 (島田)
4	スポーツにおける下半身の障害と治療1 (島田)
5	スポーツにおける下半身の障害と治療2 (島田)
6	スポーツにおける下半身の障害と治療3 (島田)
7	実技試験 (島田)
8	成績評価, フィードバック (島田)

9	美容鍼のガイダンス 皮膚の構造（北園）
1 0	表情筋ならびに咀嚼筋の刺鍼（北園）
1 1	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅰ（北園）
1 2	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅱ（北園）
1 3	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅲ（北園）
1 4	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅳ（北園）
1 5	立体造顔美容に基づいた実技試験（北園）
1 6	総括と総評 上級のデモンストレーション（北園）

科 目	総合実践実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	前窪 美香	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	「アロマコーディネーター講座」 JAA 著 (日本アロマコーディネーター協会) 「Essential oil Guide book」 JAA 著 (日本アロマコーディネーター協会)
成績評価	実技試験から出席点 (1回欠席－6点・遅刻・早退－2点), 授業態度 (ふさわしくない身だしなみ1回－4点) を総合的に評価する。 期末試験もしくは総合評価が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	欠席せず取り組むこと。

科目の目標	臨床での施術の幅を広げるため、アロマの知識を習得する。
授業概要	アロマの基礎知識の学習, アロマクラフトの実践。

日程

回数	授業内容
1	アロマ施術で使用する部位における解剖学①
2	アロマ施術で使用する部位における解剖学②
3	アロマ施術で使用する部位における解剖学③
4	アロマ施術で使用する部位における解剖学④
5	オリエンテーション, アロマの基礎知識 1
6	アロマの基礎知識 2, クラフト実習 1
7	アロマの基礎知識 3, クラフト実習 2
8	アロマの基礎知識 4, クラフト実習 3
9	アロマの基礎知識 5, クラフト実習 4
10	アロマの基礎知識 6, クラフト実習 5
11	アロマの基礎知識 7, クラフト実習 6
12	アロマの基礎知識 8, クラフト実習 7
13	アロマの基礎知識 9, クラフト実習 8
14	総復習
15	アロマ試験
16	フィードバック

科 目	臨床応用実習Ⅰ (後期 Aクラス)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	金子 尚史	教員区分	一般教員

教科書	特になし。テーマに沿ったテキストにて配布。
参考書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「ネッター 解剖学アトラス」 F.H.Netter 著 (南江堂) 「クリニカルマッサージ」 James H. Clay 著 (医道の日本社) 「プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」 坂井建雄 監訳 (医学書院)
成績評価	出席(1回欠席-6点・1回遅刻-2点)、授業態度、実技試験を総合的に評価する。
留意事項	体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 1回完結の授業であるため、できるだけ欠席しないこと。 実習中はリスク管理に努め、無理な刺激は絶対にしないこと。 常に臨床を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 刺激部位の露出しやすい服装を心がけること。 刺激部位の構造(骨、筋、靱帯、神経、血管)を必ず予習しておくこと。

科目の目標	触診、刺激技術の更なる向上と、様々な疾患に対して鍼灸治療を行うための、基本的な刺激技術や鍼通電技術を獲得する。
授業概要	2年間で学んだ基礎医学(解剖学、生理学)と実技実習(鍼基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床評価実習Ⅰ・Ⅱ、鍼灸応用実習Ⅰ・Ⅱ)の知識と技術を基にして、鍼灸院で多く受診される疾患に対して施術する場合の、基礎となるパルス治療、特に筋パルスの技術を獲得する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション(鍼について、灸について)、刺激(基礎)、リスクマネジメント…安全に刺激するには
2	身体バランスの見方、上肢、上肢帯の経穴刺激法①肩甲骨周囲
3	身体バランスの見方、上肢、上肢帯の経穴刺激法②前胸部、上肢
4	背部筋を使って反応部位の探し方と刺激量の調節の仕方
5	身体バランスの見方、体幹部(背部)刺激法①
6	身体バランスの見方、体幹部②腹部 兪募配穴との組み合わせ

7	下肢帯①(骨盤, 股関節) 刺鍼法
8	下肢帯②(骨盤, 股関節, 下腿) 刺鍼法
9	局所治療①頸部(斜角筋)～肩関節刺鍼法
10	局所治療②膝刺鍼法
11	全身調整～後療法①
12	全身調整～後療法②
13	症状に応じた施術, 組み立て
14	実技試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	臨床応用実習Ⅱ (後期 Bクラス)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	橋本 巖	教員区分	一般教員

教科書	資料を配布する。
参考書	「日本鍼灸医学 経絡治療・基礎編」 経絡治療学会 「新版 東洋医学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	出席 (1回欠席－6点・1回遅刻－2点), 相応しくない身だしなみ (－4点), 授業態度, 実技試験を総合的に評価する。
留意事項	体調管理 (睡眠, 食事など) に努め, 実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 1回完結の授業であるため, できるだけ欠席しないこと。 実習中はリスク管理に努め, 無理な刺激は絶対にしないこと。 常に臨床を意識し, 言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 刺激部位の露出しやすい服装を心がけること。 刺激部位の構造 (骨, 筋, 靱帯, 神経, 血管) を必ず予習してくること。

科目の目標	触診, 刺激技術の更なる向上をはかる。特に, 経絡病証を考慮した治療を行うために必須な経絡流注の把握や基本的な切診技術, 要穴の取穴と適切な刺激法を獲得する。
授業概要	2年間で学んだ基礎医学 (解剖学, 生理学) と実技実習 (鍼基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ, 臨床評価実習Ⅰ・Ⅱ, 鍼応用実習Ⅰ・Ⅱ) の知識と技術を基にして, 鍼灸院で多く受診される疾患に対して施術する場合の経絡治療を修得する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション 経絡治療について, 診察法概論 (切診), 刺激の基礎 (姿勢)
2	「肺経」流注と経絡病証・脈診 (右寸口) と切経・要穴と背部兪穴刺激, 刺激の基礎 (押手)
3	「肝虚証」主証決定 (脈診と六十九難) と対応する要穴刺激
4	「腎虚証」主証決定 (脈診と六十九難) と対応する要穴刺激
5	「脾虚証」主証決定 (脈診と六十九難) と対応する要穴刺激
6	「肺虚証」主証決定 (脈診と六十九難) と対応する要穴刺激
7	「脾経」流注と経絡病証・脈診 (右関上) と切経・要穴と背部兪穴刺激, 刺激の基礎 (刺手)
8	「心経」流注と経絡病証・脈診 (左寸口) と切経・要穴と背部兪穴刺激, 刺激の基礎 (弾入)
9	「腎経」流注と経絡病証・脈診 (左尺中) と切経・要穴と背部兪穴刺激, 刺激の応用 (旋撚)
10	「心包経」流注と経絡病証・脈診 (右尺中) と切経・要穴と背部兪穴刺激, 刺激の応用 (雀啄)
11	「肝経」流注と経絡病証・脈診 (左関上) と切経・要穴と背部兪穴刺激, 刺激の応用 (催気)

1 2	体質別治療①
1 3	体質別治療②
1 4	実技試験
1 5	フィードバック
1 6	総復習

科 目	臨床実習 (A・Bクラス)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	90
		履修年次	3年次
		実施学期	前・後期
教 員 名	内藤 玄吾(Aクラス) 浅野 貴之(Bクラス)	教員区分	実務教員

教科書	特になし
参考書	適宜紹介
成績評価	評価表に基づく。1～36回目までを前期，37～48回目を後期の評価対象とする。
留意事項	臨床の場に相応しい服装，態度で臨むこと。

科目の目標	基礎医学に基づき，施術所来院患者に対し，的確な治療を体系立てて行えるように学習する。治療の意義や目的を理解し，学生自身が自ら治療計画を立案できるように学習する。
授業概要	実際の臨床の中で患者を診ながら学習を進める。1年次，2年次を通し基礎的な授業で学んできた実技と理論を実際の臨床のなかで治療として行えるよう総合的に学習する。

実務経験	新宿医療専門学校附属左門町鍼灸院にて勤務。
実務経験と授業の関連	臨床現場で経験した知識，技術を授業に取り入れる。

日程

回 数	授業内容
37	治療の準備・治療の組立て・刺鍼・抜鍼・カルテの記載など
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	
46	
47	
48	評価，治療の準備・治療の組立て・刺鍼・抜鍼・カルテの記載など

科 目	基礎力重点コース① (解剖学)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18(合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	山口 智也	教員区分	一般教員

教科書	特になし. 配布資料で実施する.
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験による. 欠席回数が3分の1を上回る者は再試験の対象となる.
留意事項	欠席をしないこと. 復習を必ず行い, 記憶すること. 鍼灸師にとって必要な解剖学の知識を確認すること.

科目の目標	解剖学の基礎力を固め,考える力を養う.
授業概要	解剖学を中心に総合的に行う.

日程

回 数	授業内容
1	解剖学 1
2	解剖学 2
3	解剖学 3
4	解剖学 4
5	解剖学 5
6	解剖学 6
7	解剖学 7
8	解剖学 8
9	解剖学 9
10	解剖学 10
11	解剖学 11
12	解剖学 12
13	解剖学 13
14	解剖学 14
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	基礎力重点コース② (生理・病理学)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	本 多 淳	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「病気がみえる」シリーズ (メディックメディア) 「標準生理学」(医学書院) 「標準病理学」(医学書院) 他
成績評価	定期試験による。欠席回数が3分の1を上回る者は再試験の対象となる。
留意事項	専門用語の位置づけ, 各用語間の関連付けや, 各用語の類似点・相違点の再確認を行う。 用語の理解が足りない点については授業時間以上の時間を割いて学習すること。

科目の目標	教育目標：生理学, 病理学教科書の各章ごとの概要・分類項目について全体像を意識させる。 到達目標：生理学, 病理学教科書にある専門用語について概ね解説ができる。
授業概要	教科書について, 印象付けを強くしておくべき内容の再確認を中心とする。

日程

回 数	授業内容
1	内分泌の復習
2	生殖・成長と老化の復習
3	神経の復習 1
4	神経の復習 2
5	神経の復習 3
6	神経の復習 4
7	筋の復習 1
8	運動の復習 1
9	運動の復習 2
10	感覚の復習 1
11	感覚の復習 2
12	病理学の復習 1 (循環障害, 退行性病変, 進行性病変)
13	病理学の復習 2 (炎症, 腫瘍)
14	病理学の復習 3 (免疫異常, 先天性病変)
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	基礎力重点コース③ (法規・リハビリ)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教科書	特になし。配布資料にて実施。
参考書	「医療概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「関係法規 第7版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「新版 リハビリテーション医学」 (公社)東洋療法学校協会編 (文光堂)
成績評価	定期試験による。欠席回数が3分の1を上回る者は再試験の対象となる。
留意事項	問題点を見つけ出すこと。

科目の目標	社会に関連のある法規や社会問題・リハビリテーション学を総合的に学習する。
授業概要	現代社会と法規の関連・現代社会のリハビリテーションを様々な事例から関連付けていく。

日程

回 数	授業内容
1	リハビリテーション1
2	リハビリテーション2
3	リハビリテーション3
4	リハビリテーション4
5	リハビリテーション5
6	リハビリテーション6
7	リハビリテーション7
8	リハビリテーション8
9	リハビリテーション9
10	リハビリテーション10
11	リハビリテーション11
12	法規・社会問題1
13	法規・社会問題2
14	法規・社会問題3
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	基礎力重点コース④ (総論)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3 年次
		実施学期	後期
教 員 名	金子 尚史	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 配布プリント(前期のものも使用します)
参考書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験による。欠席回数が3分の1を上回る者は再試験の対象となる。
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。

科目の目標	総合的に考える力を養い、応用力をつける。
授業概要	臨床医学総論を中心に総合的に行う(各論、リハ等)。

日程

回 数	授業内容
1	臨床医学総論 1
2	臨床医学総論 2
3	臨床医学総論 3
4	臨床医学総論 4
5	臨床医学総論 5
6	臨床医学総論 6
7	臨床医学総論 7
8	臨床医学総論 8
9	臨床医学総論 9
10	臨床医学総論 10
11	臨床医学総論 11
12	臨床医学総論 12
13	臨床医学総論 13
14	臨床医学総論 14
15	定期試験・まとめ
16	解答・解説

科 目	基礎力重点コース⑤ (各論Ⅰ)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学各論 第2版(および追加資料)」 (公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「解剖学 第3版」「生理学 第3版」「病理学概論 第2版」「臨床医学総論 第2版(および追加資料)」 「新版 解剖生理」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「新版 東洋医学臨床論」 (公社)東洋療法学校協会編(南江堂) 「新版 リハビリテーション医学」 (公社)東洋療法学校協会(分光堂)
成績評価	定期試験による。欠席回数が3分の1を上回る者は再試験の対象となる。
留意事項	総合的な学習となるので、必要と思われる分野の事前学習を行う事。

科目の目標	上述の各教科書分野について、各用語にみられる関連性を意識し、問題解決能力の向上を目指す。疾患名から疫学・疾病特有の分類・自覚的・他覚的・症状、検査法と検査結果、治療や予後経過について記録・保存したものを、正確に想起することができる。
授業概要	臨床医学分野と基礎医学分野の医学用語の運用に慣れる事や症例の読解訓練を行う。

日程

回 数	授業内容
1	総合的な臨床医学各論の演習 1
2	総合的な臨床医学各論の演習 2
3	総合的な臨床医学各論の演習 3
4	総合的な臨床医学各論の演習 4
5	総合的な臨床医学各論の演習 5
6	総合的な臨床医学各論の演習 6
7	総合的な臨床医学各論の演習 7
8	総合的な臨床医学各論の演習 8
9	総合的な臨床医学各論の演習 9
10	総合的な臨床医学各論の演習 10
11	総合的な臨床医学各論の演習 11
12	総合的な臨床医学各論の演習 12
13	総合的な臨床医学各論の演習 13
14	総括
15	定期試験
16	解答と解説, 授業総括

科 目	基礎力重点コース⑥ (各論Ⅱ)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単位数	18(合計)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	小笠原 京哉	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「解剖学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「新版 解剖生理」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
成績評価	定期試験による。欠席回数が3分の1を上回る者は再試験の対象となる。
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。必ず復習を行い記憶すること。

科目の目標	上述の各教科書分野について、各用語にみられる関連性を意識し、問題解決能力の向上を目指す。疾患名から疫学・疾病特有の分類・自覚的他覚的症状、検査法と検査結果、治療や予後経過について記録・保存したものを、正確に想起することができる。
授業概要	臨床医学各論の総まとめをおこなう。

日程

回数	授業内容
1	臨床医学各論 演習1
2	臨床医学各論 演習2
3	臨床医学各論 演習3
4	臨床医学各論 演習4
5	臨床医学各論 演習5
6	臨床医学各論 演習6
7	臨床医学各論 演習7
8	臨床医学各論 演習8
9	臨床医学各論 演習9
10	臨床医学各論 演習10
11	臨床医学各論 演習11
12	臨床医学各論 演習12
13	臨床医学各論 演習13
14	総復習
15	定期試験
16	試験解説

科 目	基礎力重点コース⑦ (臨床医学)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学総論 第2版(および追加資料)」 (公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「解剖学 第3版」「生理学 第3版」「病理学概論 第2版」「臨床医学各論 第2版(および追加資料)」 「新版 解剖生理」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「新版 東洋医学臨床論」 (公社)東洋療法学校協会編(南江堂) 「新版 リハビリテーション医学」 (公社)東洋療法学校協会(分光堂)
成績評価	定期試験による。欠席回数が3分の1を上回る者は再試験の対象となる。
留意事項	復習を必ず行い、記録・保存・想起の訓練を行ってください。

科目の目標	鍼灸師に必要とされる現代医学知識の再確認と教科書の順番に捕らわれない練度の向上を目指します。
授業概要	臨床検査で頻出する項目について、意味と評価から得られる情報を疾患別の特徴と病態概念との結びつきについて習得した知識のすり合わせを行う。

日程

回 数	授業内容
1	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用①
2	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用②
3	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用③
4	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用④
5	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑤
6	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑥
7	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑦
8	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑧
9	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑨
10	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑩
11	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑪
12	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑫
13	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑬
14	総括
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	基礎力重点コース⑧ (経絡経穴)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	北園 実鈴	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「経絡・ツボの教科書」兵頭明 監修 (新星出版社) 「東洋医学の教科書」平馬直樹ら 監修 (ナツメ社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 配布プリント
成績評価	定期試験8割, 暗唱2割(指定された期日までに行うこと)による総合評価. 総合評価ないし定期試験が6割未満の者は再試験とする. 欠席回数が3分の1を上回る者は再試験の対象となる.
留意事項	復習を欠かさず行うこと. 鍼灸師として必要な経穴の知識を確認しておくこと.

科目の目標	経絡経穴概論の基礎力を固め, 考える力を養う.
授業概要	経絡経穴概論の内容を総合的に行う.

日程

回 数	授業内容
1	経絡経穴 1
2	経絡経穴 2
3	経絡経穴 3
4	経絡経穴 4
5	経絡経穴 5
6	経絡経穴 6
7	経絡経穴 7
8	経絡経穴 8
9	経絡経穴 9
10	経絡経穴 10
11	経絡経穴 11
12	経絡経穴 12
13	経絡経穴 13
14	経絡経穴 14
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	基礎力重点コース⑨ (東洋医学)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3 年次
		実施学期	後期
教 員 名	黒岩 太	教員区分	一般教員

教 科 書	「新版 東洋医学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参 考 書	特になし
成績評価	定期試験による。欠席回数が3分の1を上回る者は再試験の対象となる。
留意事項	東洋医学概論をしっかり復習すること。

科目の目標	東洋医学概論の応用を目標とする。
授業概要	東洋医学概論の総まとめ

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション 東洋医学演習 1
2	東洋医学演習 2
3	東洋医学演習 3
4	東洋医学演習 4
5	東洋医学演習 5
6	東洋医学演習 6
7	東洋医学演習 7
8	東洋医学演習 8
9	東洋医学演習 9
10	東洋医学演習 10
11	東洋医学演習 11
12	東洋医学演習 12
13	東洋医学演習 13
14	まとめ
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	基礎力重点コース⑩ (東洋臨床)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3 年次
		実施学期	後期
教 員 名	内藤 玄吾	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）」（公社）東洋療法学校協会編（医道の日本社） 「新版 東洋医学概論」（公社）東洋療法学校協会編（医道の日本社） 「新版 経絡経穴概論 第2版」（公社）東洋療法学校協会編（医道の日本社）
参考書	特になし
成績評価	定期試験による。欠席回数が3分の1を上回る者は再試験の対象となる。
留意事項	東洋医学臨床論，現代医学臨床論の内容を復習すること。

科目の目標	東洋・西洋医学的な鑑別，診断，施術方法について習得する。
授業概要	東洋医学臨床論の総まとめをおこなう。

日程

回 数	授業内容
1	東洋医学臨床論 演習 1
2	東洋医学臨床論 演習 2
3	東洋医学臨床論 演習 3
4	東洋医学臨床論 演習 4
5	東洋医学臨床論 演習 5
6	東洋医学臨床論 演習 6
7	東洋医学臨床論 演習 7
8	東洋医学臨床論 演習 8
9	東洋医学臨床論 演習 9
10	東洋医学臨床論 演習 10
11	東洋医学臨床論 演習 11
12	東洋医学臨床論 演習 12
13	東洋医学臨床論 演習 13
14	まとめ
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	臨床力重点コース① (解剖学)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	山口 智也	教員区分	一般教員

教科書	特になし. 配布資料で実施する.
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験による. 欠席回数が3分の1を上回る者は再試験の対象となる.
留意事項	欠席をしないこと. 復習を必ず行い, 記憶すること. 鍼灸師にとって必要な解剖学の知識を確認すること.

科目の目標	解剖学の基礎力を固め, 考える力を養う.
授業概要	解剖学を中心に総合的に行う.

日程

回 数	授業内容
1	解剖学 1
2	解剖学 2
3	解剖学 3
4	解剖学 4
5	解剖学 5
6	解剖学 6
7	解剖学 7
8	解剖学 8
9	解剖学 9
10	解剖学 10
11	解剖学 11
12	解剖学 12
13	解剖学 13
14	解剖学 14
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	臨床力重点コース② (法規・リハビリ)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教 科 書	特になし。配布資料にて実施。
参 考 書	「医療概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「関係法規 第7版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「リハビリテーション医学」 (公社)東洋療法学校協会編 (文光堂)
成績評価	定期試験による。欠席回数が3分の1を上回る者は再試験の対象となる。
留意事項	問題点を見つけ出すこと。

科目の目標	社会に関連のある法規や社会問題・リハビリテーション学を総合的に学習する。
授業概要	現代社会と法規の関連・現代社会のリハビリテーションを様々な事例から関連付けていく。

日程

回 数	授業内容
1	リハビリテーション1
2	リハビリテーション2
3	リハビリテーション3
4	リハビリテーション4
5	リハビリテーション5
6	リハビリテーション6
7	リハビリテーション7
8	リハビリテーション8
9	リハビリテーション9
10	リハビリテーション10
11	リハビリテーション11
12	法規・社会問題1
13	法規・社会問題2
14	法規・社会問題3
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床力重点コース③ (各論Ⅰ)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18(合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学各論 第2版(および追加資料)」 (公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「解剖学 第3版」「生理学 第3版」「病理学概論 第2版」「臨床医学総論 第2版(および追加資料)」 「新版 解剖生理」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「新版 東洋医学臨床論」 (公社)東洋療法学校協会編(南江堂) 「新版 リハビリテーション医学」 (公社)東洋療法学校協会(分光堂)
成績評価	定期試験による。欠席回数が3分の1を上回る者は再試験の対象となる。
留意事項	総合的な学習となるので、必要と思われる分野の事前学習を行う事。

科目の目標	上述の各教科書分野について、各用語にみられる関連性を意識し、問題解決能力の向上を目指す。疾患名から疫学・疾病特有の分類・自覚的・他覚的・症状、検査法と検査結果、治療や予後経過について記録・保存したものを、正確に想起することができる。
授業概要	臨床医学分野と基礎医学分野の医学用語の運用に慣れる事や症例の読解訓練を行う。

日程

回 数	授業内容
1	総合的な臨床医学各論の演習 1
2	総合的な臨床医学各論の演習 2
3	総合的な臨床医学各論の演習 3
4	総合的な臨床医学各論の演習 4
5	総合的な臨床医学各論の演習 5
6	総合的な臨床医学各論の演習 6
7	総合的な臨床医学各論の演習 7
8	総合的な臨床医学各論の演習 8
9	総合的な臨床医学各論の演習 9
10	総合的な臨床医学各論の演習 10
11	総合的な臨床医学各論の演習 11
12	総合的な臨床医学各論の演習 12
13	総合的な臨床医学各論の演習 13
14	総括
15	定期試験
16	解答と解説, 授業総括

科 目	臨床力重点コース④ (臨床医学)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3 年次
		実施学期	後期
教 員 名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学総論 第2版(および追加資料)」 (公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「解剖学 第3版」「生理学 第3版」「病理学概論 第2版」「臨床医学各論 第2版(および追加資料)」 「新版 解剖生理」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「新版 東洋医学臨床論」 (公社)東洋療法学校協会編(南江堂) 「新版 リハビリテーション医学」 (公社)東洋療法学校協会(分光堂)
成績評価	定期試験による。欠席回数が3分の1を上回る者は再試験の対象となる。
留意事項	復習を必ず行い、記録・保存・想起の訓練を行ってください。

科目の目標	鍼灸師に必要とされる現代医学知識の再確認と教科書の順番に捕らわれない練度の向上を目指します。
授業概要	臨床検査で頻出する項目について、意味と評価から得られる情報を疾患別の特徴と病態概念との結びつきについて習得した知識のすり合わせを行う。

日程

回 数	授業内容
1	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用①
2	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用②
3	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用③
4	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用④
5	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑤
6	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑥
7	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑦
8	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑧
9	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑨
10	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑩
11	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑪
12	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑫
13	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑬
14	総括
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	臨床力重点コース⑤ (東洋医学)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18(合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	黒岩 太	教員区分	一般教員

教 科 書	「新版 東洋医学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参 考 書	特になし
成績評価	定期試験による。欠席回数が3分の1を上回る者は再試験の対象となる。
留意事項	東洋医学概論をしっかり復習すること。

科目の目標	東洋医学概論の応用を目標とする。
授業概要	東洋医学概論の総まとめ

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション 東洋医学演習 1
2	東洋医学演習 2
3	東洋医学演習 3
4	東洋医学演習 4
5	東洋医学演習 5
6	東洋医学演習 6
7	東洋医学演習 7
8	東洋医学演習 8
9	東洋医学演習 9
10	東洋医学演習 10
11	東洋医学演習 11
12	東洋医学演習 12
13	東洋医学演習 13
14	まとめ
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	臨床力重点コース⑥ (東洋臨床)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18 (合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3 年次
		実施学期	後期
教 員 名	内藤 玄吾	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	特になし
成績評価	定期試験による。欠席回数が3分の1を上回る者は再試験の対象となる。
留意事項	東洋医学臨床論，現代医学臨床論の内容を復習すること。

科目の目標	東洋・西洋医学的な鑑別，診断，施術方法について習得する。
授業概要	東洋医学臨床論の総まとめをおこなう。

日程

回 数	授業内容
1	東洋医学臨床論 演習 1
2	東洋医学臨床論 演習 2
3	東洋医学臨床論 演習 3
4	東洋医学臨床論 演習 4
5	東洋医学臨床論 演習 5
6	東洋医学臨床論 演習 6
7	東洋医学臨床論 演習 7
8	東洋医学臨床論 演習 8
9	東洋医学臨床論 演習 9
10	東洋医学臨床論 演習 10
11	東洋医学臨床論 演習 11
12	東洋医学臨床論 演習 12
13	東洋医学臨床論 演習 13
14	まとめ
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	臨床力重点コース⑦ (中医学・美容鍼灸)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18(合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	石田 大弥(中医学) 北見 成達(美容鍼灸)	教員区分	一般教員

石田 大弥

教 科 書	特に必要なし(配布資料で行います)
参 考 書	配布資料
成績評価	定期試験による。欠席回数が3分の1を上回る者は再試験の対象となる。 50点満点とし、美容鍼灸の期末試験の得点との合算とする。
留意事項	体調管理に勤め、遅刻・早退・欠席の無いよう心がける。

科目の目標	中医学の理論体系を理解し、鍼灸臨床へ応用する。
授業概要	中医学の基礎 ～ 臨床応用を学ぶ。

北見 成達

教 科 書	配布資料
参 考 書	配布資料
成績評価	実技試験と出欠席状況による総合評価とする。 欠席回数が3分の1を上回る者は再試験の対象となる。 50点満点とし、中医学の期末試験の得点との合算とする。
留意事項	復習、予習につとめ、実習に相応しい服装、身だしなみを心がけ参加すること。

科目の目標	美容鍼灸に必要な知識と技術を習得し、個々の主訴に対応する美容鍼灸施術を習得する。
授業概要	鍼灸施術による健康状態の改善方法と、各損容性疾患の発生機序と対応施術を習得する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・中医学基礎理論① (石田)
2	中医学基礎理論② (石田)
3	中医学基礎理論③ (石田)
4	中医学臨床論① (石田)
5	中医学臨床論② (石田)
6	筆記試験 (石田)
7	フィードバック (石田)
8	まとめ (石田)

9	講義「美容鍼灸とその効果について」及び実技「表情筋の触察」	(北見)
10	フェイシャル	(北見)
11	主訴別（たるみリフトアップ，ほうれい線，シワ，くま，くすみ，ニキビ等）の 症状に応じた刺鍼①	(北見)
12	主訴別（たるみリフトアップ，ほうれい線，シワ，くま，くすみ，ニキビ等）の 症状に応じた刺鍼②	(北見)
13	主訴別（たるみリフトアップ，ほうれい線，シワ，くま，くすみ，ニキビ等）の 症状に応じた刺鍼③	(北見)
14	実技試験・主訴別（たるみリフトアップ，ほうれい線，シワ，くま，ニキビ等）の 症状に応じた刺鍼④ 実技試験	(北見)
15	フィードバック	(北見)
16	まとめ	(北見)

科 目	臨床力重点コース⑧ (現代鍼灸・経絡治療)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18(合計)
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	森田 義之(現代鍼灸) 岡田 明三(経絡治療)	教員区分	一般教員

森田 義之

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	特になし.
成績評価	定期試験による. 欠席回数が3分の1を上回る者は再試験の対象となる. 50点満点とし, 6割未満を再試験の対象とする. 経絡治療の試験の得点との合算とする.
留意事項	解剖学の運動器を復習しておくこと.

科目の目標	痛みに対する療法のトリガーポイントの基礎を理解し、臨床現場で適切な患者応対ができるようにする.
授業概要	習熟度が一定レベルに到達するよう、診断論と治療論の習熟に努める.

岡田 明三

教科書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「日本鍼灸医学 基礎編」(経絡治療学会)
成績評価	臨床カルテ作成による評価. 欠席回数が3分の1を上回る者は再試験の対象となる. 50点満点とし, 6割未満を再試験の対象とする. 現代鍼灸の試験の得点との合算とする.
留意事項	教育用診察録(岡田作成)を使用する.

科目の目標	東洋医学的診断を修得する.
授業概要	座学と診断法の実習.

日程

回 数	授業内容
1	トリガーポイント鍼療法概論 (森田)
2	頸椎における筋の力学と鍼灸への応用 (森田)
3	腰椎における筋活動の力学と鍼灸への応用 (森田)
4	肩複合体における筋活動の力学と鍼灸への応用 (森田)
5	膝関節における筋活動の力学と鍼灸への応用 (森田)
6	自律神経とトリガーポイント鍼療法の関係 (森田)
7	トリガーポイント鍼療法試験・フィードバック (森田)
8	授業総括 (森田)
9	東洋医学的診断の総論 (四診について) (岡田)
10	東洋医学的診断の各論 (望診、聞診、問診) (岡田)
11	東洋医学的診断の各論 (切診) (岡田)
12	診察法の実際 (岡田)
13	臨床カルテ作成① (岡田)
14	臨床カルテ作成② (岡田)
15	定期試験 (岡田)
16	授業総括 (岡田)

科 目	臨床力重点コース⑨ (臨床演習)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単 位 数	18(合計)
		時 間 数	64
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教 員 名	内藤 玄吾・本多 淳	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	臨床録と出席状況に基づく。欠席回数が3分の1を上回る者は再試験の対象となる。
留意事項	臨床の場にふさわしい服装, 態度で臨むこと。

科目の目標	治療の一連を来院患者に対し的確に体系立てて行えるようにする。
授業概要	本校での教育の核となる臨床教育の最終部分となる授業である。 実際の臨床の中で患者を診ながら学習を進める。1年次, 2年次, 3年次を通し基礎的な授業で学んできた実技と理論を実際の臨床のなかで治療として行えるよう総合的に学習する。

日程

回 数	授業内容
1・2	臨床演習 1
3・4	臨床演習 2
5・6	臨床演習 3
7・8	臨床演習 4
9・10	臨床演習 5
11・12	臨床演習 6
13・14	臨床演習 7
15・16	臨床演習 8
17・18	臨床演習 9
19・20	臨床演習 10
21・22	臨床演習 11
23・24	臨床演習 12
25・26	臨床演習 13
27・28	臨床演習 14
29・30	まとめ 1
31・32	まとめ 2